

Ericom Blaze™

**Microsoft Remote Desktop Protocol (RDP)
強化された圧縮ならびに高速化**

ユーザ・ガイド

バージョン 2.5

法律上のお知らせ

この資料は以下の条件ならびに制約の対象となります。

- このユーザ・ガイドは Ericom Blaze に関する資料です。この製品の一部のバージョンでは、このマニュアルにて述べられている機能の一部のみが含まれるかもしれません。
- この資料の内容のいかなる部分も、電子的または機械的ないかなる手段により、いかなる目的、いかなる個人や会社に対しても、Ericom® Software からの書面による事前の許可なしで公表してはなりません。
- テキストやグラフィックスは例えや参考用となっています。その基となる詳細は報告なしに変更される場合があります。
- この資料で説明されているソフトウェアはライセンス契約のもとで提供されています。契約条件に従ってのみ、利用したり、コピーしたりすることができます。
- この資料の情報は事前の報告なしに変更される場合があります。例えて用いられている企業や個人の名称等は注意書きがある場合以外にはあくまで架空のものとなります。

Copyright © 2013 Ericom® Software Ltd. Ericom is a registered trademark of Ericom Software Ltd. Other company brands, products and service names, are trademarks or registered trademarks of their respective holders.

BlazeUG20130903



目次

法律上のお知らせ.....	2
1. 製品の概要.....	5
5分で開始する.....	6
2. Ericom Blaze サーバ	8
ホストのファイヤーウォール設定.....	15
3. ライセンスの概要.....	16
検証（デモ）期間.....	16
ライセンス・モード.....	16
一括管理サーバ設定.....	17
4. Windows 用の Ericom Blaze クライアント.....	19
Windows にて Ericom Blaze クライアントを用いる.....	20
5. VMware® View Client Mode.....	31
Secure Gateway アクセス.....	33
6. Mac 用の Ericom Blaze クライアント.....	34
Mac にて Ericom Blaze クライアントを用いる.....	34
7. Linux 用の Ericom Blaze クライアント.....	37
Linux にて Ericom Blaze クライアントを用いる.....	39
8. CE 用の Ericom Blaze クライアント (β 版).....	40
9. ベスト・プラクティス.....	41
セキュリティ設定をチューニングすることによるパフォーマンスの向上.....	41
暗号化されたパスワードやパラメータを用いる.....	43
ロードバランサーを用いる.....	43
外国語のキーボード・レイアウトならびに外国語での利用.....	45
10. Ericom Blaze をアンインストールする.....	47
11. Juniper® SSL VPN とのインテグレーション.....	48
12. iGel® Linux シンクライアントのインストール.....	53
13. トラブルシューティングとよくある質問.....	58

この資料につきまして

この資料では Microsoft リモート・デスクトップ・プロトコル (RDP) コミュニケーションを高速化ならびに圧縮するために、どのように Ericom Blaze をインストールし、活用することができるのかに関する指針が提供されます。この資料の指示に従うことにより、数分のうちに Ericom Blaze の優れた機能を実感することができるでしょう。

このガイドには以下のような情報が含まれています。

- Ericom Blaze の概要
- 準備とインストレーションの手順
- 活用方法に関する指示
- トラブルシューティングとよくある質問

このマニュアルでは、読者が以下の知識をすでにお持ちである事を前提としています。

- Windows オペレーティング・システムで RDP を有効とする
- ファイヤーウォールの設定
- ウェブ・サーバの管理

この資料で用いられている重要な技術用語

- RDP：リモート・デスクトップ・プロトコル (Remote Desktop Protocol) の略。Microsoft にて開発されたリモート表示のプロトコル。RDP は Microsoft Windows の基本的なコンポーネントのひとつです。
- RDP ホスト：Microsoft RDP を用いてリモートよりアクセスできる Windows システム。リモート・アクセスが可能なターミナル・サーバ (RDS セッション・ホスト) や Windows ワークステーション等。
- HTML5：HTML 規格の新たなアップデート。コミュニケーションや表示等のための新たな特徴や機能を HTML に追加する。
- WebSocket：HTML5 規格にて公開された双方向かつ完全な 2 階層のコミュニケーション用メカニズム。
- SSL：セキュア・ソケット・レイヤ (Secure Sockets Layer) はインターネット上で安全なコミュニケーションを提供するための暗号化プロトコルです。

1. 製品の概要

サテライト、ブロードバンド、エアカード等のほとんどのワイドエリア・ネットワーク（WAN）を利用する際に Ericom Blaze を用いる事により、エンドユーザはより優れたリモート・コンピューティングを体験することができます。Microsoft リモート・デスクトップ・プロトコル（RDP）を大幅に高速化し、圧縮することにより、それが可能となります。結果として、高いフレーム率、レスポンス時間の向上、よりスムーズなスクリーンのアップデートがもたらされます。Ericom Blaze は以下を実行します。

- RDP コミュニケーションの確認、ビットマップ等のグラフィックス用エレメントの特定ならびに圧縮。より優れたユーザ体験を提供するために、品質や圧縮率は設定可能となります。
- タスクバーやスタートメニューなどの主要なグラフィックス用エレメントを特定し、それらを一般の品質設定に関係なく、高品質レベルで圧縮します。そうすることにより、高画質を保ったままのリモート・コンピューティング体験を提供します。
- 優れたパフォーマンスの一括圧縮機能を用いて、RDP 転送全体を圧縮します。
- ネットワークの利用を最適化し、データ・パケットの転送を高速化するためにパケット・シェーピングを実行します。
- インテリジェントにフレームを提供するため、スクリーンは複数のブロックではなく、ひとつのユニットとして表示されます。

Ericom Blaze は RDP をサポートするいかなる x86 または x64 ベースのホスト・システムと共に機能します。その中には Windows ターミナル・サーバやリモートの物理システム、仮想デスクトップも含まれます。Ericom Blaze は以下のコンポーネントにより構成されています。

- **Ericom Blaze サーバ**

このコンポーネントは RDP サーバ/ホストにインストールされ、RDP を圧縮し、高速化します。以下のシステムがサポートされています。

- Windows 2003 と 2003 R2 – 32 bit と x64
- Windows 2008 – 32 bit と x64
- Windows 2008 R2
- Windows 2012
- Windows XP、Vista、Windows 7、Windows 8 – 32 bit と x64

- **Ericom Blaze クライアント**

このクライアント用コンポーネントは高速化された RDP を用いて、Blaze サーバに接続するか、標準的な RDP ホストに接続することができます。以下のプラットフォームがサポートされています。

- Windows 2003 と 2003 R2 – 32 bit と x64
 - Windows 2008 – 32 bit と x64
 - Windows 2008 R2
 - Windows 2012
 - Windows XP、Vista、Windows 7、Windows 8 – 32 bit と x64
 - Windows XPe, CE
 - Linux
 - Mac OS X
- **Ericom AccessToGo Mobile クライアント**

このクライアント用コンポーネントは高速化された RDP を用いて Blaze サーバ群と接続し、またスタンダードな RDP ホストとも接続することもできます。以下のプラットフォームがサポートされています。（より詳しい情報は、AccessToGo マニュアルをご参考ください。）

 - Apple iOS 5 またはそれ以上
 - Android OS 2.1 またはそれ以上
 - Blackberry Playbook 2.0.1 またはそれ以上
 - Blackberry 10 またはそれ以上
 - Chrome / Chrome OS

5 分で開始する

Ericom Blaze は高機能かつ使い易いアプリケーションです。このマニュアルでは、お客様がそれぞれの環境にあった仕方でのこのアプリケーションを最適に設定できることを目指し、利用可能な機能の詳細が述べられています。

基本的なインストールは約 5 分程で完了となり、Blaze クライアント（AccessToGo を実行しているモバイル・デバイスを含む）を実行しているいかなるデバイスからも Windows RDP ホスト（サーバまたはワークステーション）にアクセスすることが可能となります。

- 1) Ericom ウェブサイトより Ericom Blaze Server MSI インストーラをダウンロードする
- 2) MSI インストーラを実行し、すべてのダイアログ・ボックスにて **Next** をクリックし、最後に **Finish** をクリックする
- 3) Blaze と用いる Windows Firewall を設定（無効と）する
 - a. Windows Control Panel に進み、*Windows Firewall* を開く
 - b. 「Allow Program or Feature ...」 をクリックする
 - c. 「Allow another program ...」 をクリックする

- d. *Browse* をクリックし、こちらに進む：<drive>:\ProgramFiles(x86)\Ericom Software\Ericom Blaze Server\BlazeServer32.exe
 - e. *Add* をクリックし、OK とする
- 4) Blaze Server は RDP ホストにインストールされた後、利用可能となります。その後、接続元として用いるデバイスに Blaze Client（または AccessToGo）をインストールします。
 - 5) Blaze Client に Blaze Server のパラメータを入力し、*Connect* ボタンをクリックして接続を開始します。

2. Ericom Blaze サーバ

Ericom Blaze サーバは RDP 圧縮と高速化を扱います。このコンポーネントは RDP ホスト（ユーザが接続しているコンピューター）にインストールされます。ホストは Windows ターミナルサーバや Windows ワークステーション等の RDP アクセスが可能な Windows システムを用いる事ができるかもしれません。Blaze サーバはカスタマイズ可能なポートを用います。初期設定のポート番号は 3399 となります。

注意 Ericom Blaze は初期のバージョンに遡って対応していない場合があります。もし初期のバージョンの Blaze をお用の場合には、最適化を図るために、すべての Blaze クライアントとサーバ用コンポーネントを同じバージョンとするようにしてください。

Ericom Blaze サーバに必要とされるもの

- Windows オペレーティング システム。サポートされているプラットフォームは 1 章にてご確認ください。
- OS にて RDP 接続を受信することが可能
- 20 MB のハードディスク空き容量
- MMX と SSE2 に対応する CPU
- Blaze ポートのトラフィックを許可するようにファイアーウォールを設定

Blaze サーバは高速化されたアクセスが必要なそれぞれのサーバ/ホストにインストールする必要があります。ターミナルサーバはすべてのユーザのセッションを高速化するため、一度のみインストールすることが必要とされます。それぞれのワークステーション用デスクトップ（物理ならびに仮想）をインストールすることが必要です。Microsoft® Sysprep や Symantec® Ghost を用いて公開されるイメージの一部として Blaze サーバを含むことも可能です。

すべてのネットワーク・インターフェースに対するバインド・サービス

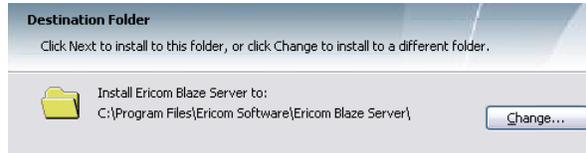
仮想ネットワーク環境において、ひとつの仮想 NIC を用いるのではなく、すべての仮想ネットワークのインターフェースを用いるために Blaze Server をバインドすることをお勧めします。対象となるエンド・ユーザのグループが Blaze Server が用いているネットワークのインターフェースにアクセス可能であることを常に確かめるようにしてください。

Ericom Blaze サーバをインストールする

Ericom Blaze Server.msi を実行し、インストール用ウィザードの指示に従ってください。

ライセンスの同意事項を読み、受け入れる。

お望みの場合には、*Change* をクリックし *installation location* を選択し、ターゲットのパスを指定する。



Install をクリックする。（もし促された場合には、セキュリティを強化するリクエストを受け入れる）最後の画面で *Finish* をクリックし、インストレーションを完了する。

Blaze ポートが利用可能でホスト用システムにてアクセス可能かを確認する。さらなるファイヤーウォールの設定が必要とされるかもしれません。

Windows XP では、Ericom Blaze サーバをインストールした後、システムの再起動が必要となるかもしれません。

Blaze サーバは Microsoft System Center などの管理用アプリケーションを用いて、自動的かつ静的にインストールすることもできます。

静的にインストールをするにはこちらを実行します。

```
msiexec /I "EricomBlazeServer.msi" /q
```

EricomBlazeServer.msi は .msi ファイルへの有効なパスを指定します。

Windows Vista、7、Windows Server 2008 や R2 でこのコマンドを実行するには高度な身分証明が必要となる場合があります。そうしない場合には失敗する場合があります。

Ericom Blaze サーバを用いる

Blaze サーバの設定を変更するにはこちらを開きます。

Start | Programs | Ericom Software | Blaze Server.



初期設定にて、Ericom Blaze サーバはポート 3399 にて受信接続を受け付けます。この場合においても、Microsoft Windows RDP ポート（初期設定値は 3389）を妨げることはありません。

Blaze サーバの設定

Server Configuration コンソールには一群のタブが表示されており、管理者はサーバ用サービスの様々な設定をすることができます。Configuration コンソールは Microsoft Internet Explorer 7 またはそれ以上のシステムにおいてのみ機能します。（このコンソールは IE6 がインストールされているシステムでは用いる事ができません）

ヒント ターミナルサーバに Blaze サーバをインストールする際、Blaze Server Configuration のアプリケーションをエンド・ユーザから見えないようにすることをお勧めします。そうすることにより、予期せずに Blaze サーバ設定が変更されることを防ぐことができます。

General

このページは Blaze Server のサービスを開始ならびに終了するための機能を提供します。特定の設定を変更する際、サービスの再起動が求められます。このページはこのシステムに対するアクティブな Blaze のセッションの数をも表示します。

注意 Blaze Server のサービスが再起動された際、サーバ上のすべての Blaze セッションは未接続となります。



Licensing Information

このページでは Blaze サーバのライセンス情報が表示されます。 *Connected to licensing server* というフィールドにて、現在利用されているライセンス・サーバが示されます。

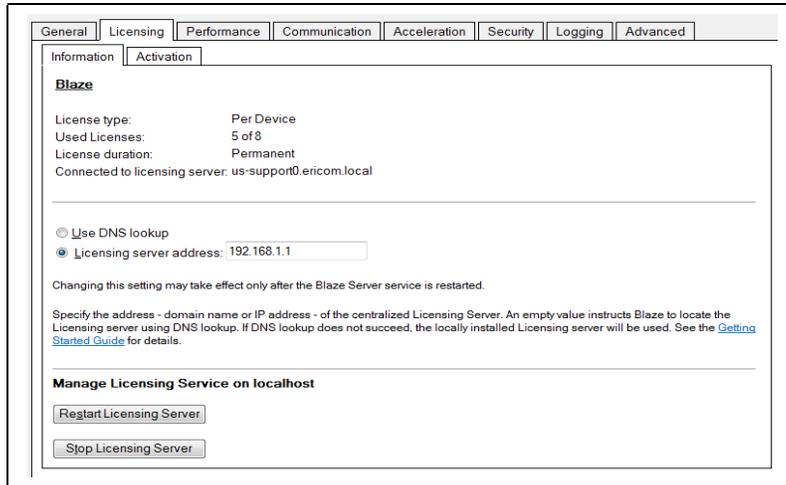
注意 仮想デスクトップ (VDI) やターミナルサーバの本番環境では、ライセンス・サーバは強力なシステムにて一括管理されなければなりません。詳細につきましては、一括管理サーバの設定の章にてご確認ください。

初期設定として、Blaze Server は Licensing Server を特定するために DNS lookup を用います。用いられる DNS エントリは *ericom-license-server.<domain-name>* または *_ericom-license-server._tcp.<domain-name>* となります。もし DNS エントリが存在しない場合には、Blaze サーバは同じコンピュータにて実行されている Licensing Server への接続を試みます。

その他の方法としては、*Licensing server address* 内の Blaze Server Configuration にて、Licensing Server のアドレスを明確に指定する方法があります。以下のサンプル用画像では、192.168.1.1 は Licensing Server のロケーションを示します。この値は Blaze Server を一括管理 Licensing Server のロケーションと共に設定する際に用いられます。Licensing Server のアドレスを変更した後、*Service* タブを用いて Blaze Server サービスを再起動します。

ライセンス・サーバは初期設定値として、ポート 8888 を用いて通信します。

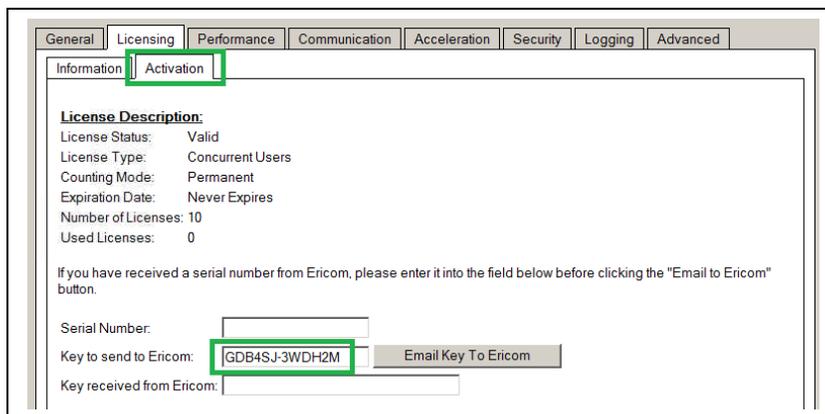
もし有効なライセンスが見つからない場合、Blaze Server はお試し期間が期限切れとなっていない限り、実行しつづけます。お試し期間が期限切れとなると、Blaze Server はユーザーのセッションを受け付けなくなります。「お試し期間」は 30 日間内の 10 日間までとなります。



Licensing Activation

Licensing | Activation をクリックし、シリアル番号とアクティベーション・キーを製品の設定に入力します。検証で用いたインストールをアクティベートするには、シリアル番号とともに「key to send to Ericom」を supportusa@ericom.com に送信し、手続きを依頼します。その後、アクティベーション・キーが返信されます。そのアクティベーション・キーを入力し、Activate License ボタンをクリックします。ライセンスを有効にするために Blaze Server を再起動する必要はありません。

検証期間を延長するには、「key to send to Ericom」を Ericom 社の営業担当に送付して手続きを開始します。依頼が受理された後、通常の 2 週間延長用キーが返信されます。



Performance

このページは現在の Blaze サーバのパフォーマンス統計を表示します。

General	Licensing	Performance	Communication	Acceleration	Security	Logging	Advanced
---------	-----------	-------------	---------------	--------------	----------	---------	----------

Server to Client communication

Number of sessions: 0

Average compression ratio: 69 %

Total data received from host: 5 MB

Total data sent to client: 1 MB

Real-time cumulative performance information for all sessions since Blaze Server was started. Counters are reset when the Blaze Server service is restarted. Display is automatically updated approximately once every 10 seconds.

Communication

このページは Blaze のライセンス提供用ポートや、RDP を実行するホストのアドレスを変更するための機能を提供します。

初期設定（3399）以外を Blaze のライセンス提供用ポートを用いる場合には、ポート番号をクライアントのアドレス用フィールドにて明確に指定しなければなりません。（例：rdpdemo.ericom.com:23）

受信先のシステムが Blaze サーバを実行しているシステムでない場合には、RDP ホストのアドレスが用いられます。このシナリオでは、Blaze サーバがエンド・ユーザと受信先ホスト用システム間のプロキシとして動作します。このようなタイプの設定は Blaze のパフォーマンスに悪影響をもたらすため、推奨されていません。

両方の設定を変更するにはサービスを再開することが必要です。（サービスのページをご覧ください）

General	Licensing	Performance	Communication	Acceleration	Security	Logging	Advanced
---------	-----------	-------------	---------------	--------------	----------	---------	----------

Blaze port number:

Changing this setting will take effect only after the Blaze Server service is restarted.

Specifies the TCP/IP port on which the Blaze Server service listens for incoming connections. Do not use a port number which is already in use by some other service or application on the computer. If you do, Blaze Server service will not start.

Important: Blaze Clients automatically connect to port 3399 when using accelerated RDP. If a different port value is selected, that value must be explicitly specified in the Clients' host address field.

RDP host address:

Changing this setting will take effect only after the Blaze Server service is restarted.

Specifies the address - domain name or IP address - of the RDP host for which Blaze acceleration is used. Best performance is achieved when the Blaze Server is installed on the RDP host itself. In that case the address localhost should be used.

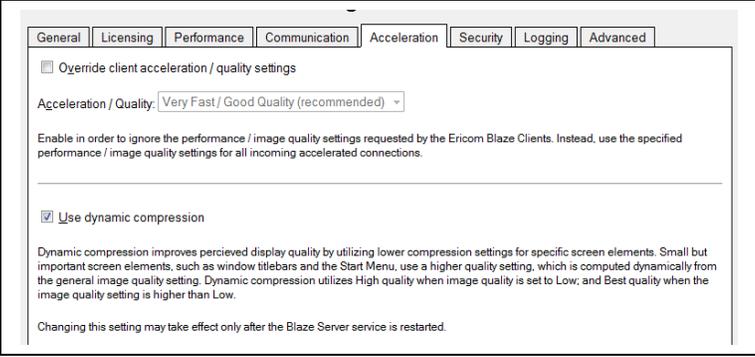
When connecting to localhost Blaze Server will automatically determine the RDP port by retrieving that value from the system. When connecting to any address other than localhost, Blaze Server will connect to the default RDP port, which is port 3389. To specify a different port use the format: address.port-number

複数のネットワークカードのあるマシンにて Blaze サーバを実行する場合、RDP のホストアドレスを localhost からシステムへの RDP アクセスの可能なネットワークカードの IP アドレスまたは DNS アドレスに変更してください。

Acceleration

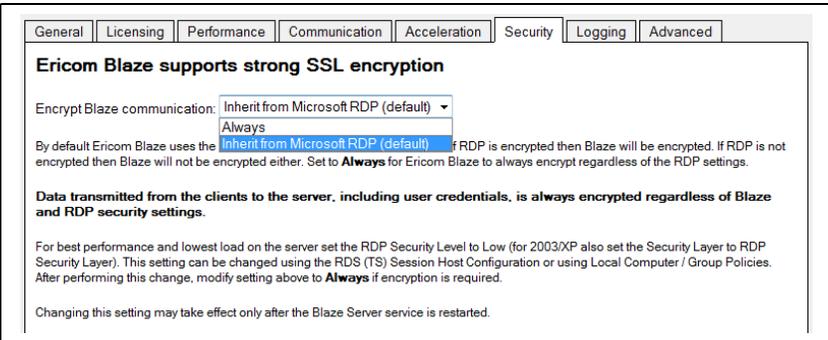
このページでは高速化/品質レベルを設定する機能、ダイナミックな圧縮を無効にする機能を提供しています。Override client acceleration / quality settings チェックボックスが選択されている場合には、すべての Blaze セッションは既存の設定を用います。すべてのクライアント用の設定は無視されます。この設定をチェック、または未チェックとする場合は、サービスを再起動してその変更が適用されるようにします。設定が有効とされると、高速化レベルの変更にはサービスの再起動は必要ではありませんが、アクティブなユーザは再接続することにより、新たな設定を用いる事ができるようになります。

Dynamic Compression はスクリーン上の小さなグラフィックス用オブジェクト（ツールバーのアイコン、タスクバーのアイコン、スタートメニューのアイコン等）を認識し、Blaze の品質設定が Low の場合には高品質で、または Blaze の品質設定が Low より高い場合には最高品質で圧縮します。その他すべてのグラフィックス用オブジェクトはすでに選択された品質にて圧縮されます。そうすることにより、高品質のリモート・デスクトップのセッションを利用することができます。初期設定にて、この機能は有効となっています。無効とするためには、「Use dynamic compression」ボックスを未選択としてください。



Security

このページでは Blaze のセキュリティ条件を設定することができます。

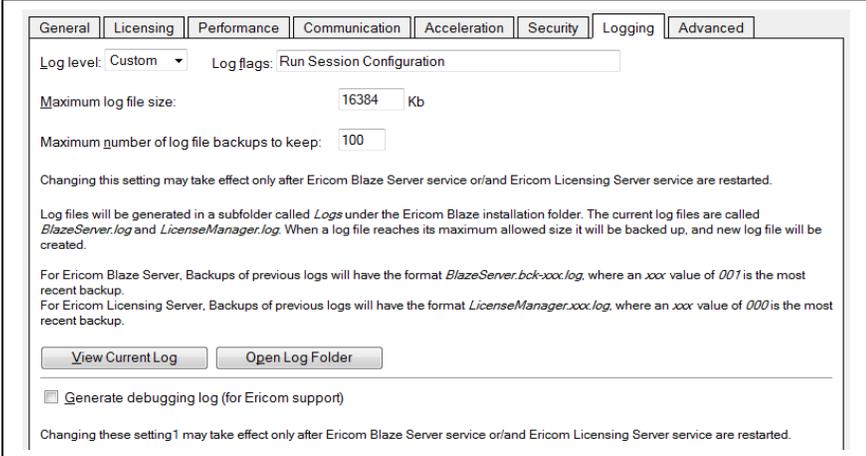


Ericom Blaze は統合された 128-bit SSL 暗号化を提供します。最高のパフォーマンスが求められる場合には、RDP セキュリティ暗号化レベルを Low に設定し、Encrypt Blaze communication を Always と変更することができます。この設定を用いる事により、

Ericom Blaze SSL 暗号化が RDP 暗号化の代わりに用いられます。詳細につきましてはこの資料のベスト・プラクティスの章にてご確認ください。

Logging

このページでは、特定のログイン方法機能を有効または無効にする機能について説明します。Ericom サポートとしましては、問題の原因究明のためにログをデバッグすることを求める場合があります。ここでは、ログのデバッグが有効となっています。



Advanced (管理者のみ利用)

このページでは高度な Ericom Blaze サーバの設定へのアクセスを提供します。それらの設定はシステムのレジストリに保存されています。

Open Registry : エディタを開き、Ericom Blaze レジストリ用のキーが保存されているロケーションを表示します。

Export Settings : Blaze サーバのレジストリ用キーをユーザのホーム・フォルダにエクスポートします。(例: マイドキュメント)

Import Settings : 以前に保存された Blaze サーバのレジストリを設定をインポートします。

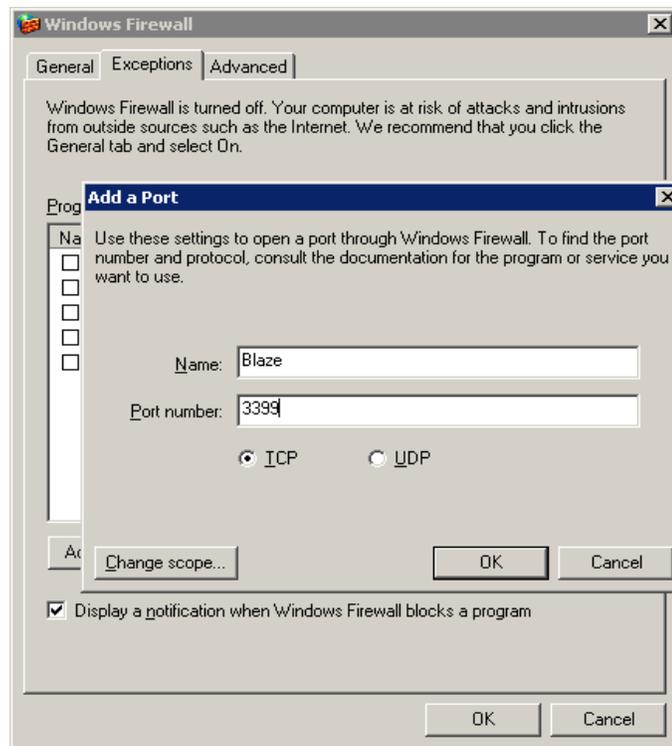
Advanced Configuration : すべての設定可能なレジストリ用キーの設定内容をレジストリに追加します。初期設定として、初期設定値から変更された設定のみレジストリに保存されます。

ホストのファイヤーウォール設定

エンド・ユーザのデバイスから Blaze の有効なホストへの Ericom Blaze トラフィック通信が可能であることを確認してください。ファイヤーウォールの設定が必要とされる場合もあります。

Windows のオペレーティング・システムにて、Blaze 用ポート（初期設定値は 3399）へのトラフィックが可能であるように Windows のファイヤーウォールが設定されていることを確認してください。

Windows でのファイヤーウォール設定のサンプル：



ポート転送の設定

ファイヤーウォールにて Blaze の有効なホストへのポート転送が設定されている場合には、Blaze ポート（初期設定値：3399）へ転送されているかどうか確認してください。3389（初期設定 RDP ポート）へ転送してはなりません。

もしカスタムの Blaze ポートが用いられている場合には、Communication のページで設定されているポートの値に対して転送がなされるようにファイヤーウォールを設定してください。

3. ライセンスの概要

検証（デモ）期間

すべての Blaze サーバのインストールには、同じデバイスにインストールされているライセンス・サーバがすでに含まれています。初期設定として、ライセンス・サーバには 30 日間の検証期間がすでに含まれています。この期間中、ライセンス・サーバは 50 までの同時利用ユーザ用ライセンスを許可します。検証期間を延長したい場合には、Ericom 営業担当にご連絡ください。

ライセンス・モード

Ericom ライセンス・サーバのサービスは Ericom Blaze 用のライセンス提供を管理します。高速化された Ericom Blaze のクライアント用セッションを用いている場合には、常に Ericom のライセンスが必要となります。ひとつのライセンス・サーバにて無制限数の Blaze サーバのライセンスを管理することができます。

2 種類のライセンス形態があります。

同時利用ユーザ： 同じライセンス・サーバを用いているすべての Blaze サーバに現在接続されているアクティブ・ユーザの数をもとに、Ericom のライセンスを数えます。この方法においては、このような点を考慮してください。

- ひとりのユーザが、ひとつのクライアント用デバイスから同時に用いている Blaze のセッション数にはライセンスの制限は課されません。ユーザがこのデバイスで用いているセッション数に関わりなく、ひとつのライセンスが必要となります。
- 同じユーザが複数のデバイスから Blaze セッションを同時に用いている場合には、デバイス数と同じ数のライセンスが必要です。
- 複数のユーザが同じデバイス（例：高速のユーザ・スイッチング）を用いている場合には、アクティブの Blaze セッションを利用するユーザ数と同じ数のライセンスが必要です。

指名されたユーザ： 同じライセンス・サーバを用いているすべての Blaze サーバに接続したことがある、登録されているユーザ名の数をもとにして、Ericom ライセンスを数えます。この方法においては、次の点を考慮してください。

- ユーザにより最初に用いられた名前に対してライセンスが割り当てられます。
- Blaze クライアントを実行するためにこの名前が 14 日間全く用いられなかった場合には、その期間の後、ライセンスは自動的にリリースされます。この名前に割り当てられたライセンスは 14 日の期間が終了する前にリリースすることはできません。

一括管理サーバ設定

Blaze サーバはリモートのライセンス・サーバを用いるように設定することができます。そうすることによりひとつのライセンス用プールを複数の Blaze サーバで共有することができます。

例えば、10 ユーザ用ライセンスを一括管理サーバで一度にアクティベートすることができます。そうすることにより、ネットワーク上のすべての Blaze サーバは一括管理サーバのライセンス用プールを用いることができるようになります。Ericom 社は 2 つ以上のターミナルサーバ (RDP ホスト) がある環境では、障害やコンフリクトを避ける目的で、ライセンスをホストするひとつの専用サーバを設置することをお勧めします。その際には以下の点に配慮するようにします。

- 一括管理ライセンス・サーバはより可用性の高いサーバにホストすることにより、ライセンスを効率よく分配することができるようになります。
- VDI (仮想デスクトップ) 環境では、クローンされたデスクトップやゴールド・イメージ用テンプレートにライセンス・サーバをインストールしないようにしてください。
- 2 つ以上のサーバがある TS/RDS 環境において、ターミナルサーバにライセンス・サーバをインストールすることはお控えください。
- サーバにて再起動やその他障害を興しかねない動作を最小限に留めるようにします。オフピーク時にのみアップデートを適用するようにします。

もし有効なライセンスが見つからない場合、Blaze Server はお試し期間が期限切れとなっていない限り、実行しつづけます。お試し期間が期限切れとなると、Blaze Server はユーザーのセッションを受け付けなくなります。「お試し期間」は 30 日間内の 10 日間までとなります。もしライセンス・サーバに問題がある場合には、お試し期間が期限切れとなる前に問題を解決するようにしてください。

一括管理ライセンス・サーバは以下の 3 つの方法にて用いることができます。

DNS Lookup を用いる

Use DNS lookup

この設定が用いられている場合においては、Blaze サーバは、ローカルにインストールされたライセンス・サーバを用いる前に、常に一括管理ライセンス・サーバを探すようになります。もし一括管理ライセンス・サーバが見つかり、利用する事ができる場合には、ローカルのライセンス・サーバは無視されます。Ericom Blaze サーバのサービスが開始された際に、以下の手順に従って一括管理されたライセンス・サーバのアドレス (IP または DNS 名) を探します。

- 1) DNS-SRV エントリー

Blaze サーバは DNS-SRV エントリー (`_ericom-license-server._tcp.<domain>`) にてライセンス・サーバのアドレスを探します。

例：`_ericom-license-server._tcp.ericom.local`

2) DNS エントリー

もし DNS-SRV レコードが存在しない場合には、Blaze サーバは DNS エントリー (`ericom-license-server.<domain>`) にてライセンス・サーバのアドレスを探します。

例：`ericom-license-server.ericom.local`

3) Localhost

もし DNS エントリーが存在しない場合には、ローカルにてインストールされたライセンス・サーバが用いられます。(例：localhostがライセンス・サーバのアドレスとしてもちいられることとなります)

マニュアル入力

`Licensing server address`

管理者は Blaze Server Configuration アプリケーションのライセンス用ページを用いて、ライセンス・サーバを明確に指定するようにします。

`Licensing server address: 192.168.1.1`

PowerTerm WebConnect を用いる

PowerTerm WebConnect の WebConnect ブローカーが用いられている場合には、すべてのライセンスはブローカーより入手されます。Blaze サーバのライセンス機能は完全に無視されます。

4. Windows 用の Ericom Blaze クライアント

Ericom Blaze クライアントは Blaze が有効なホストに接続します。このコンポーネントはクライアント用デバイス（ユーザが接続するために用いているコンピューター）にインストールされます。

注意 Ericom Blaze は初期のバージョンに遡って対応していない場合があります。もし初期のバージョンの Blaze をお用いの場合には、最適化を図るために、すべての Blaze クライアントとサーバ用コンポーネントを同じバージョンとするようにしてください。

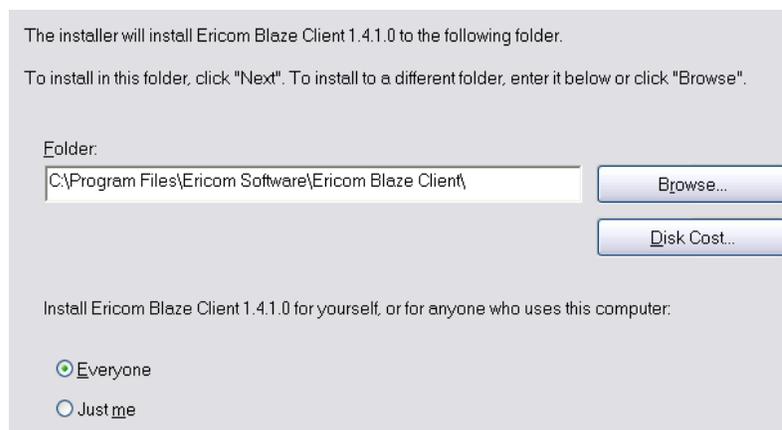
Ericom Blaze クライアントに求められるもの

Ericom Blaze クライアントはユーザのデバイスにインストールされます。

- 1 章にて、サポートされているプラットフォームを確認してください。
- 20 MB の利用可能なハードディスク容量
- MMX が利用可能な CPU

Ericom Blaze クライアントをインストールする

- Blaze インストーラにてこれまでのインストールが上書きされるかもしれません。
- Ericom Blaze Client.msi を実行します。
- ライセンス契約事項を確認し、承諾します。 *installation location* を選択し、どのユーザが Ericom Blaze を利用するのかを指定します。



- *Next* をクリックし、Blaze クライアントを用いるために **.rdp** ファイルを関連づけます。**.blaze** 拡張子が自動的にシステムに追加されます。関連づけられた設定ファイルをダブルクリックすると、Blaze クライアントはファイルの設定に従って開始されます。



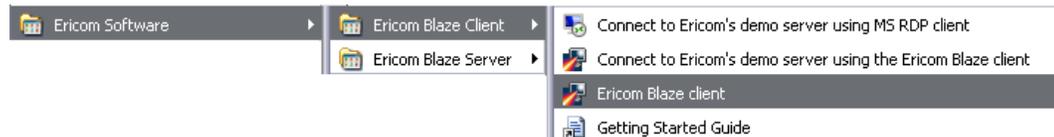
ヒント RDPクライアント (MSTSC.exe) とともに作成された.rdpファイルを用いてBlazeセッションと自動接続するには、まずはじめにBlazeクライアントを用いて.rdpファイルを保存しなければなりません。Blazeクライアントを用いて.rdpファイルを保存する前に開始すると、Blazeクライアントのユーザ・インターフェースが開きます。Blazeクライアントを用いて.rdpファイルを保存する（すべての設定が保たれる）と、今後は開始時から自動接続されるようになります。

Next をクリックしてインストールを開始し、インストールが完了するのを待ちます。（セキュリティの権限を上げるようにリクエストされる場合もあります。）

表示ウィンドウにて *Close* をクリックすると、Blazeクライアントが利用可能となります。

WindowsにてEricom Blazeクライアントを用いる

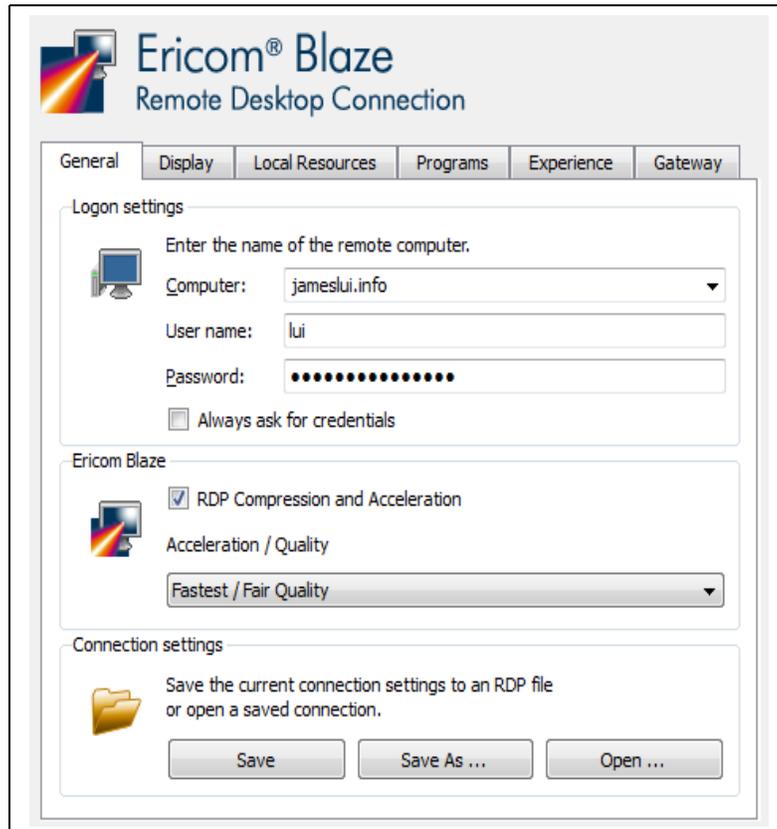
インストールされた後は、Ericom Blazeクライアントはスタートメニューから開始できるようになります。



または、Ericom Blazeクライアントは.blaze拡張子の設定ファイルをダブルクリックすることにより開始する事ができます。そうすることにより、設定用のユーザインターフェースを表示する事なく、Blazeクライアントはファイルにて特定された設定を用いてすぐに接続することになります。.blazeファイルは実行可能なblaze.exe用のパラメータとしても用いる事ができます。

注意 スプラッシュ・バナー内のEricomロゴをお好みの画像と取り替えるには、blaze.exeがある同じディレクトリにて、*splash.png* という名前のファイルを作成します。このファイルは700x120ピクセルとしなければなりません。対象となるロゴまたは画像をこのファイルにコピーすると、スプラッシュ・バナーの上に表示されます。

一般的な設定



コンピューター： Ericom Blaze サーバまたは一般的な RDP ホスト（ホスト名または IP アドレス）を実行しているホストのアドレスを入力します。ポート番号が指定されていない場合には、初期設定値として、ポート 3399 が Blaze の高速化コンポーネント用として、ポート 3389 が一般の RDP 用として利用されます。

異なるポート番号を指定するには、「:<port number>」をアドレスの末尾に追加してください。例えば、ポート 23 を用いる場合には rdpdemo.ericom.com:**23** となります。

ユーザ名/パスワード (オプションのフィールド)：対象となるホストにログインするために身分証明を入力します。ホストのログイン用ダイアログを避けるには、両方とも入力してください。

強化された RDP 圧縮と高速化を有効とする：このボックスを未選択とすると圧縮と高速化が無効となります。無効となっている場合には、RDP が用いられます。

Ericom Blaze 高速化 / 品質設定

- **Moderate/Highest**：パーフェクトな品質（ロスのない圧縮）。正確な画像提供が必要な場合に最適です。

- **Good/Very High** : 画像品質のロスを最小限に保ちます。
- **Fast/ High** : 若干品質が落ち、最高度より若干高速となります。
- **Very Fast/Good** : 品質とパフォーマンスのバランスを保ちます。通常はこちらを選択します。
- **Fastest/Fair** : 品質は落ちるものの、パフォーマンスが向上します。帯域が限られている場合、とりわけグラフィック用アプリケーションを用いる場合に有効です。

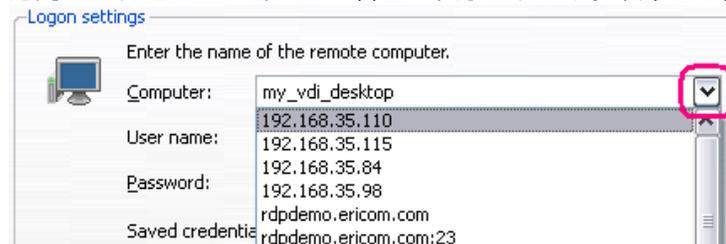


接続の設定:

- **Save** : 読み込まれているロケーションよりファイルに設定を保存します。もし設定がファイルより読みこまれていない場合には、**Save As** と同様になります。(以下を参照してください。)
- **Save As** : 新しい.blaze ファイルに設定を保存します。拡張子.rdp のついたファイルを保存する事も可能です。
- **Open** : 既存の.blaze ファイルより設定を読み込みます。拡張子.rdp のついたファイルから設定をロードすることも可能です。

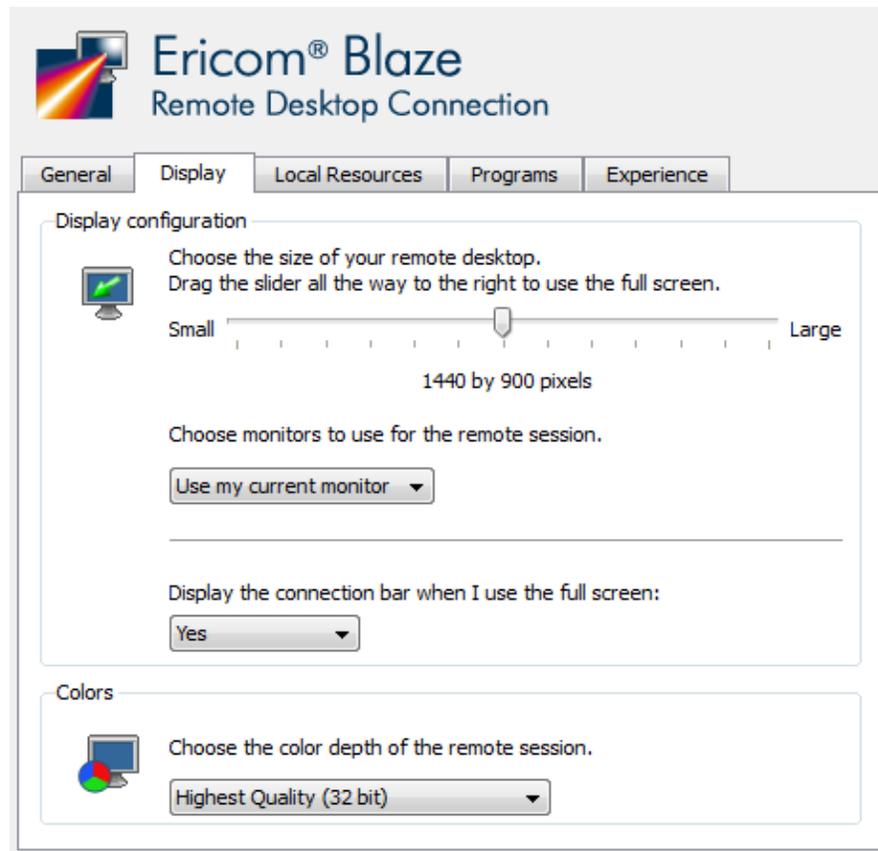
以前の設定にアクセスする。

- 過去のすべての有効なセッションの設定は自動的に再利用するために保管されます。
- 以前の設定を用いるには、**Computer** 名の右側のドロップダウンの矢印アイコンをクリックします。用いられた順にセッションが表示され、最も最近用いられたセッションが一番上に表示されます。以下をご覧ください。



Ericom Blaze セッションを開始するためのすべてのパラメータが設定された後に **Connect** をクリックします。

ディスプレイの設定



ディスプレイの設定：Ericom Blaze セッションのスクリーンサイズを指定します。フル画面セッションではローカル画面の全面が利用されます。

リモートのセッションのためのモニターを選択する

- **Use my current monitor**：Blaze セッションは現在使用中のモニターのみ開きます。（Blaze ダイアログが表示される部分）
- **Use all my monitors**：すべてのモニターを用いて Blaze セッションを開きます。

Windows Server 2008 R2 や Windows 7 に接続する場合には、リモートセッションの仮想モニターを作成するために RDP Multimon 機能が用いられます。この場合、それらの仮想モニターはローカルのモニターと全く同様となります。

それ以前のバージョンの Windows に接続する場合には、ひとつのリモート用モニターを作成するために複数モニター拡張が用いられます。MSTSC.exe の

/span フラグのように、ひとつのリモート用モニターによりすべてのローカル用モニターがまとめられます。用いられているモニター数に関係なく、デスクトップの解像度は最高 4096x2048 となります。このモードでは、Ericom Blaze は自動的にウィンドウのサイズと位置を調整し、モニター内で適切に表示されるようにします。例えば、アプリケーション用ウィンドウを最大すると、主要モニター内に収まります。

- **Span all my monitors** : Blaze セッションはすべてのモニターを用いて開きます。マルチ・モニターの拡張機能はすべてのローカルのモニターをカバーするひとつのリモート・モニターを作成します。この機能はすべてのオペレーティング・システムにて備えられています。
- **Monitor X** : Blaze セッションは X として認識されたモニターを開きます。(X は数字によるモニターの識別方法を意味します)

フル画面を用いる際に接続バーを表示する

Blaze のフル画面接続バーには 3 つのモードがあります。

- **Yes** : 接続バーが利用可能で、auto-hide モード (初期設定) にて開始されます。Pinned モードに変更する事もできます。
- **Yes (Pinned)** : 接続バーが利用可能で pinned モードにて開始されます。unpinned にすることにより auto-hide モードに変更する事もできます。
- **No** : 接続バーが利用可能ではありません。キオスクやシンククライアント環境で有効です。

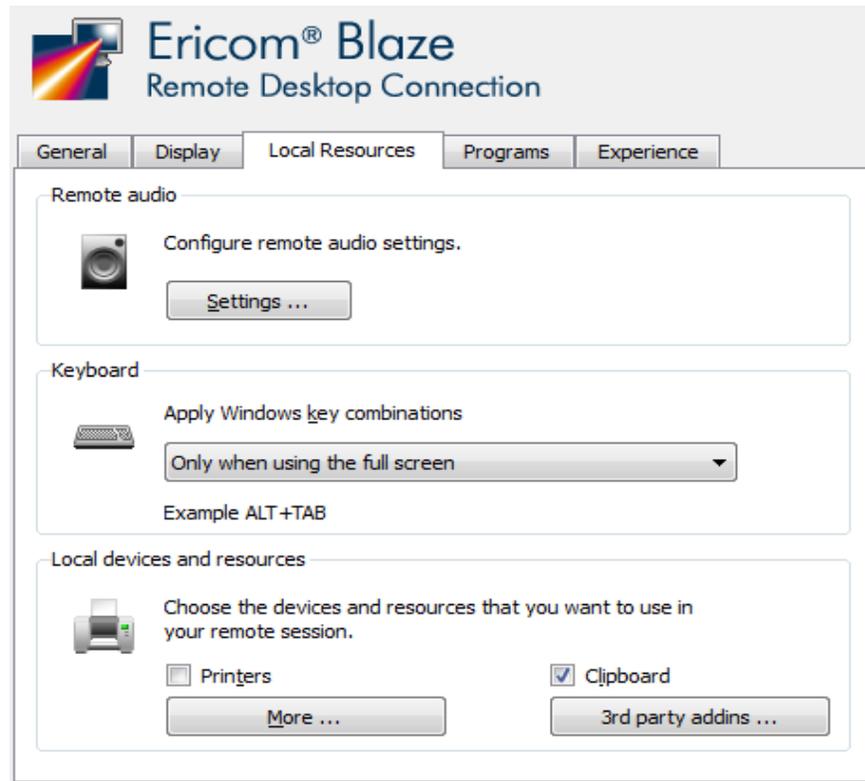
カラー : Ericom Blaze セッションにてカラーの深みを特定します。ホストのプラットフォームにて提供されている最高のカラー設定を用いるように 32 ビットのカラーを指定します。32 ビットまたはそれ以下となることもあります。例えば、Windows 2003 では 24 ビットとなります。

注意 : Windows 2003 SP2 サーバに接続している場合、クライアント用デスクトップの解像度がかなり高い場合には、カラーの深みは低くなります。この問題を解決するために Microsoft Hotfix を利用する事ができます。詳細につきましては、よくある質問の部分を読んでください。

接続バーを表示する : フル画面モードの RDP ウィンドウの上に表示される Ericom Blaze RDP バーを非表示とするには、このボックスを未選択としてください。



ローカル用リソースの設定



Remote Audio : Ericom Blaze セッションのためのオーディオ設定を指定します。

Keyboard : Windows キーの組み合わせの設定を指定します。

Local devices and resources : プリンタやクリップボードの転送を有効にします。

ヒント 通常の RDP プリンタの転送を用いるには、プリンタのドライバがホストとクライアントにインストールされていなければなりません。

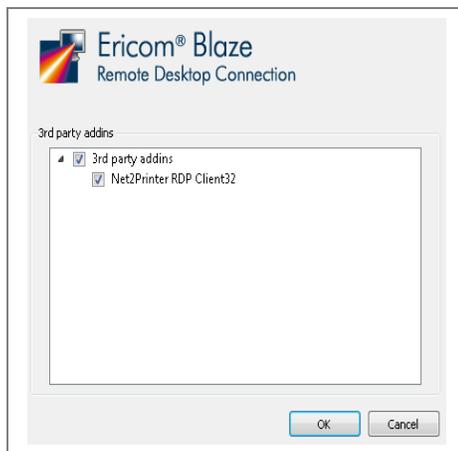
Click **More ...** リモートのホストのローカル用ディスクのマッピングを指定します。特定のフォルダ（ローカルのユーザの *My Documents* や *Desktop* 等）をマッピングすることは可能です。セッションがアクティブな間、プラグインされたドライバーのマッピングを有効にする事もできます。



サードパーティのアドイン : 32-bit のサードパーティー RDP アドイン（例：ユニバーサル印刷のリダイレクトをサポート）の利用を有効とする。Blaze は 32-bit ベースのアドイン

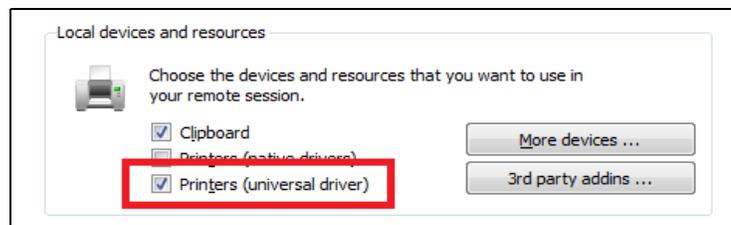
ンのみサポートしており、x64 ベースのサードパーティー・コンポーネント（例：triCerac の x64 Screwdrivers クライアント）をサポートしていません。X64 システムにて、32-bit バージョンのアドインを用いてください。

もしサードパーティのアドインがクライアント用システムに適正にインストールされていない場合には、それらを選択するための表示が Blaze クライアントにてなされません。Net2Printer や ThinPrint、triCerac、Print2RDP などのユニバーサル印刷のソリューションはすでにテストされています。AudioTS two-way audio redirection もサポートされています。サードパーティのソリューションに関する情報につきましては、Ericom (sales@ericom.com) に問い合わせてください。

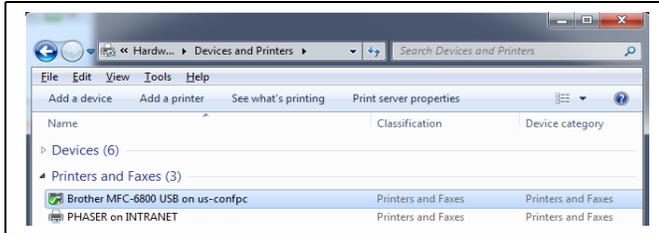


ユニバーサル印刷

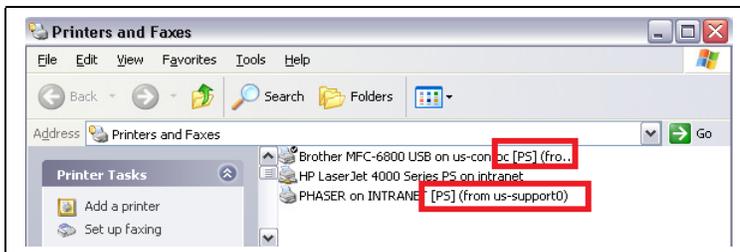
Ericom Blaze はユニバーサル印刷のサポートが含まれています。ビルトインのユニバーサル印刷は Postscript をベースにしており、リモートで実行されたプリント・ジョブをローカルのプリンタにリダイレクトします。ローカルのプリンタはリモート・セッションにおいて利用可能なプリンタとして表示されます。ユニバーサル印刷を有効とするには、Printers (Universal) 設定をチェックするようにします。



この例では、Blaze クライアントを実行している Windows 7 システムにて 2 つの利用可能なプリンタがあります。

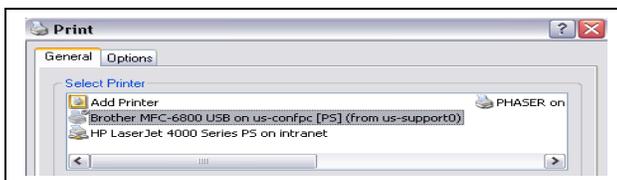


Blaze RDP セッションにて、リダイレクトされたプリンタはリモート・デスクトップにて設定されたプリンタと共に表示されます。リダイレクトされたプリンタはラベル上のコンピュータ名に「[PS]」というシンボルが付されます。

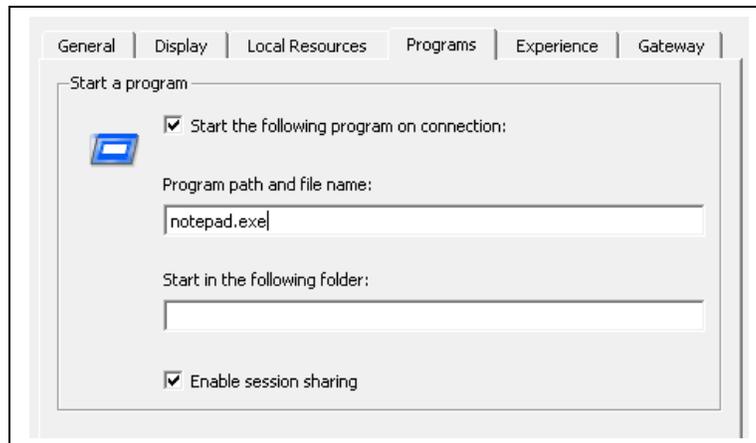


注意 プリント・ジョブを扱うために通常の HP Postscript ドライバが用いられます。ユーザはほとんどの種類のプリンタを用いる事が可能ですが、一部のプリンタ機能（例：duplex printing）は利用できない場合があります。お用のプリンタ特有の機能をサポートするには、サードパーティの印刷ソリューションを用いるか、通常の RDP 印刷（RDP ホストでプリンタ用ドライバをロードする方法）を用いる事をご検討ください。

リダイレクトされたプリンタにて印刷するには、アプリケーションの Print ダイアログが表示された際に、お望みのプリンタを選択するのみとなります。



プログラムの設定



Ericom Blaze のシームレス・アプリケーションを用いて、ユーザはデスクトップ内にリモートのアプリケーションをローカルのアプリケーションのように表示することができます。リモート・デスクトップは表示されません。この機能を用いるなら、ユーザのローカル用アプリケーションとリモートのアプリケーションを同時に利用することができます。シームレス・アプリケーションは Blaze クライアント経由の高速/非高速モードのいずれにおいてもサポートされています。アプリケーションが開始されるホスト・システムにて Blaze サーバが必要となります。

Start the following program on connection をチェックし、シームレス・アプリケーションとして開始されるプログラムのパスとスタートアップ用フォルダを指定します。リモートのシステムのアプリケーションのパスを入力する事を覚えておいてください。ローカル（ユーザ）用システムのアプリケーションのパスは入力しないでください。

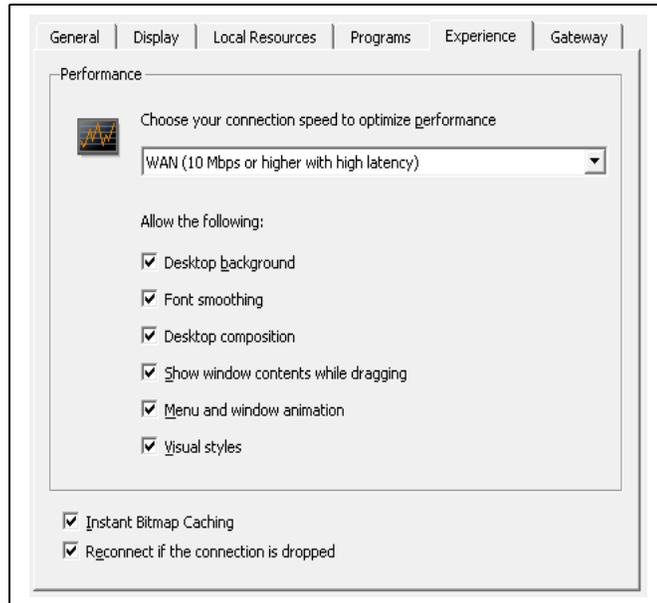
Ericom Blaze はシームレス・アプリケーションにてセッション共有をサポートします。複数のシームレス・アプリケーションを同じセッションにて開始することができるため、不必要なログインを最小限にすることができます。有効とするには、*Enable session sharing* ボックスをチェックします。

ヒント Blaze シームレス・アプリケーションは Microsoft RemoteApps の代わりとして用いる事ができるかもしれません。Blaze サーバを実行するリモート・ホストからのシームレス・アプリケーションを開始するために、Blaze 設定ファイルを指定することができます。ユーザのデスクトップに Blaze 用アイコンを表示することにより、ユーザは Blaze を用いたアプリケーションを容易に用いる事ができるようになります。

サンプルのアイコン:



Experience タブの設定



Experience ドロップダウン用ボックスをクリックし、ユーザのネットワーク速度に最適な設定を選択します。セッション用機能のチェックボックスを未選択とすることにより無効とする事もできます。

注意 もし *Show window content* が選択されている場合には、RDP ホストにおいても有効とする必要があります。設定はオペレーティング・システムにより異なり、インターネットにて「Show window content」と検索し、情報を集めるようにしてください。

Instant Bitmap Caching : 最高のパフォーマンスを提供するために、ビットマップをキャッシュすることを許可します。Microsoft RemoteFX が有効となっている RDP ホストと接続する際にはこの設定のチェックを外してください。

Reconnect if the connection is dropped : Blaze セッションがネットワーク障害にて妨げられた場合に、セッションに自動再接続することを有効とします。

ゲートウェイ・タブの設定

Ericom Secure Gateway が用いられている場合には、**Connect using Ericom Secure Gateway** ボックスをチェックします。Ericom Secure Gateway サーバのアドレスを入力します。もし特定のポートが指定されていない場合には、初期設定値の 443 が用いられます。ポートを指定するには、以下の例にて示されている通り、「:」とポートの値を入力します。Secure Gateway にログインするためのユーザ用アカウントが必要とされます。こちらはマニュアルで入力するか、Ericom Blaze クライアントにて保存されている身分証明を用いるかのいずれかとなります。



Ericom Secure Gateway に関するより詳しい情報につきましては、Ericom Secure Gateway のマニュアルにてご確認ください。

ローカル・カーソルのオプション

ローカル・カーソルを有効とするには、テキストエディタを用いて `blaze` ファイルを変更し、ファイルの最後に以下のいずれかを追加するようにします。

1. `"null cursor:s:cross"`

こちらは十字カーソルを表示します。

2. `"null cursor:s:arrow"`

こちらは通常のローカルの矢印カーソルを表示します。

3. `"null cursor:s:png"`

こちらは `blaze.exe` ディレクトリにある「`null_cursor.png`」ファイルを用います。この画像は 32x32 ピクセルでなければならず、32 ビットまでの色と alpha (0 = transparent、225 = fully opaque) により構成されます。

4. `"null cursor:s:bmp"`

こちらは 2 つの B&W ビットマップ「`null_cursor.bmp`」と「`null_cursor_map.bmp`」を用います。カーソルのビットマップ (B) とマスク (W) は以下の用な組み合わせとなります。

B = 1 と M = 1 の場合には黒となる

B = 0 と M = 1 の場合には白となる

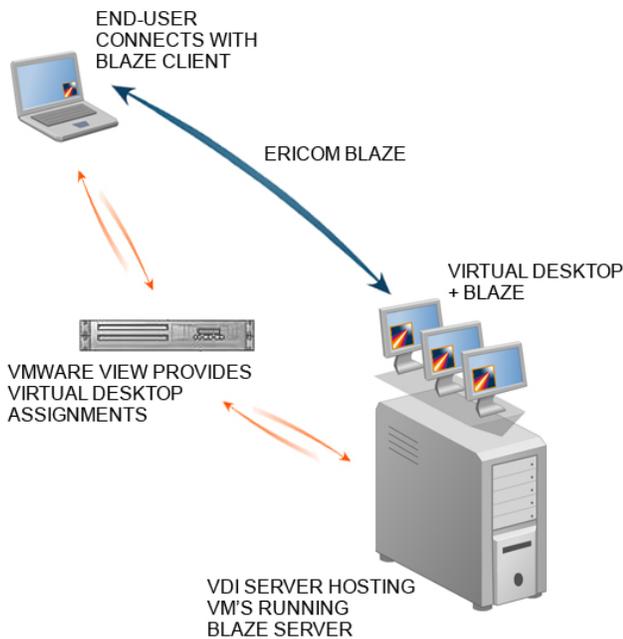
B = 0 と M = 0 の場合にはトランスペアレントとなる

B = 1 と M = 0 の場合には Windows では XOR にて処理された結果となり、その他のすべてのプラットフォームでは未定義の結果となる

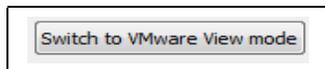
注意	この設定がマニュアルで <code>blaze</code> ファイルに追加された後は、新しい設定を更に追加保存しないようにしてください。新たに保存がなされた場合にはこの設定が上書きされてしまい、その設定をマニュアルにて再度追加しなければなりません。
----	---

5. VMware® View Client Mode

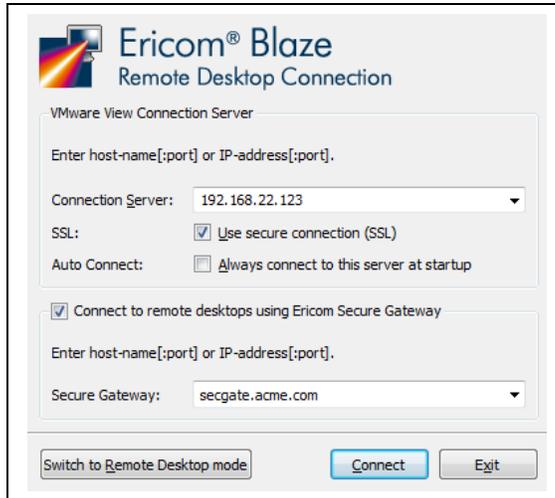
Ericom Blaze Client は VMware View コネクションブローカをサポートします。Ericom Blaze は認証のために View ブローカを用い、対象となる仮想デスクトップに直接接続します。VMware View アクセスにて Ericom Blaze RDP 高速化を用いている場合には、Blaze クライアントは View クライアントのように用いられます。Blaze クライアントは View クライアントを必要とせず、View クライアントと取り替えられることもありません。



Blaze クライアントにて VMware View モードを有効とするには、*Switch to VMware View mode* ボタンをクリックします。

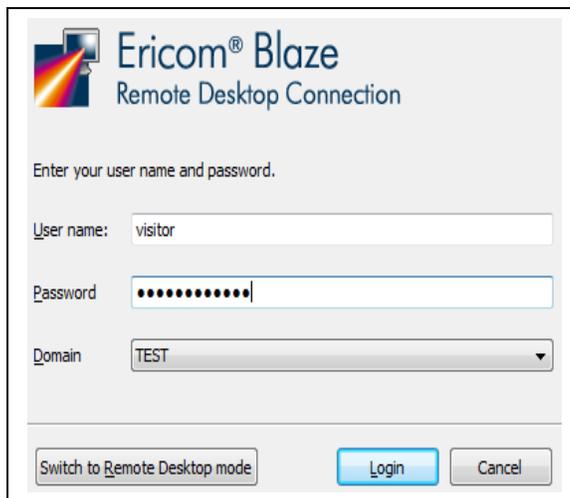


Ericom Blaze – VMware View のインターフェースが表示されます。

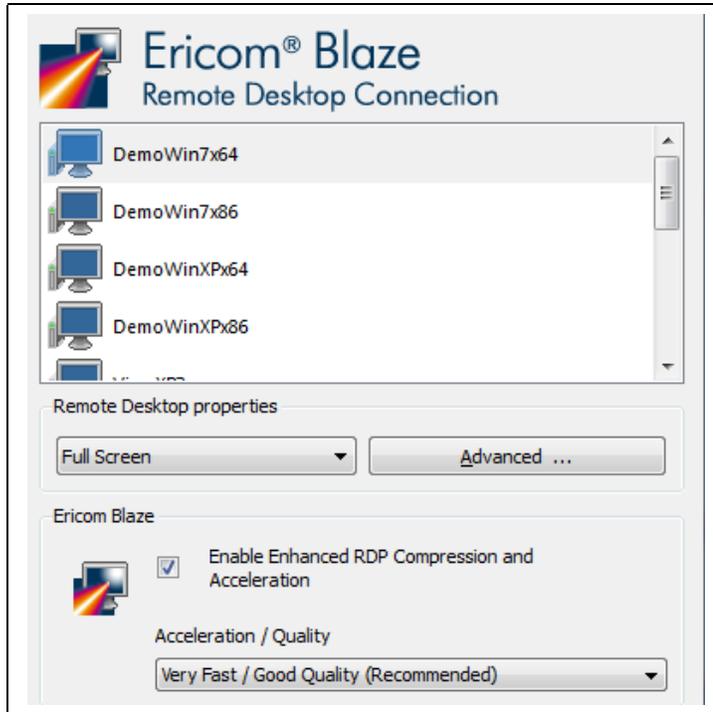


VMware View コネクションブローカにて求められる場合には、SSL を有効にします。VMware View サーバのアドレスを *Computer* フィールドに入力し、*Connect* をクリックします。

次のダイアログでは、ユーザの身分証明が求められます。



認証がなされた後、Blaze クライアントは View ブローカー経由で利用可能なデスクトップのリストをユーザに表示します。

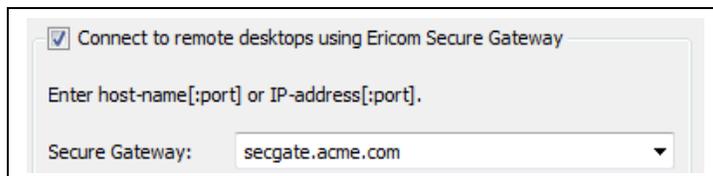


お望みの Blaze 設定を済ませ、*Connect* ボタンをクリックして選択されたデスクトップに接続します。

注意 Blaze クライアントは PCoIP をサポートしません。Ericom Blaze クライアントと Blaze プロトコルは View クライアントや PCoIP プロトコルに対し、独自に機能します。

Secure Gateway アクセス

Ericom Secure Gateway が用いられている場合には、*Connect using Ericom Secure Gateway* ボックスをチェックします。Ericom Secure Gateway サーバのアドレスを入力します。もし特定のポートが指定されていない場合には、初期設定値の 443 が用いられます。ポートを指定するには、以下の例にて示されている通り、「:」とポートの値をアドレスの後に入力します。この例では、Secure Gateway は *secgate.acme.com* というアドレスがあります。ポートの指定はないので、自動的に 443 が用いられます。



6. Mac 用の Ericom Blaze クライアント

インストールに求められるもの

- Mac OS X10.5 またはそれ以上
- 20 MB の利用可能なハードディスク容量
- MMX に対応する CPU

Mac 用の Ericom Blaze クライアントをインストールする

Mac 用の Ericom Blaze クライアントを開始するには、インストーラを実行し、インストーラ用ウィザードに含まれる指示に従います。

Mac にて Ericom Blaze クライアントを用いる

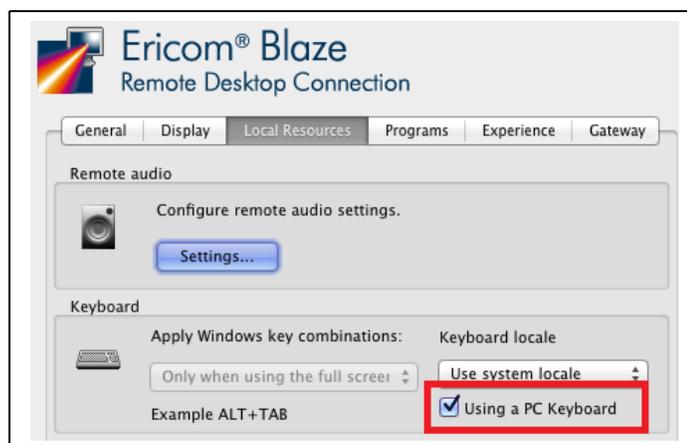
Ericom Blaze クライアントを開始するには、blaze という名前の実行ファイルまたはショートカットを持ちます。

Blaze クライアント 2.5 またはそれ以上にて、.blaze 拡張子を Blaze クライアントと関連づけます。いずれかの.blaze 設定ファイルをダブルクリックするのみで、Blaze クライアントがあらかじめ設定された内容に基づき開始されます。

コア機能の適切な利用につきましては、Windows プラットフォーム用の Blaze クライアントの章を復習してください。この章では Blaze クライアントの Windows 版と Mac 版の機能の違いが扱われます。

PC キーボードを用いる

Windows ベースの物理キーボードを用いる際には、Blaze クライアントのローカル用リソースのタブにて「Using a PC Keyboard」をチェックするようにします。

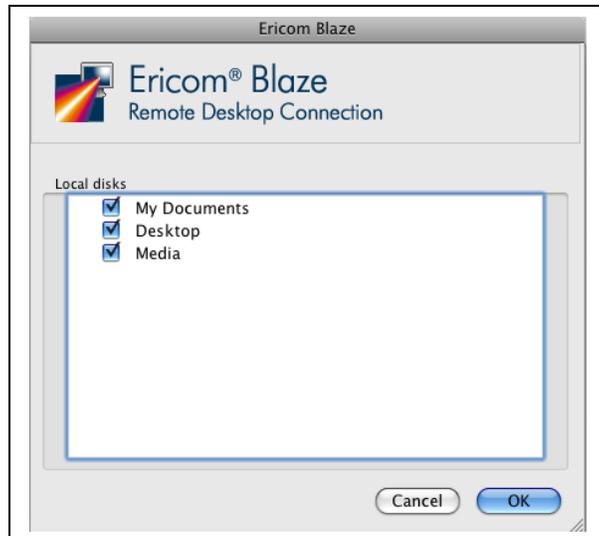


この設定がチェックされた後、特定の Mac から Windows へのキー・マッピングが無効となります。「Control and Windows」のキーは予定どおりネイティブで動作します。

この設定が未選択となっている場合には、初期設定の Mac キーボードのエミュレーションが用いられます。コントロール (CTRL) キーが Windows キーとして用いられ、コマンドキーが Windows のコントロール CTRL) キーとして用いられます。

ドライブのマッピング

ドライブのマッピング用のダイアログでは 3 つのオプションが表示されます。



- ホーム・ディレクトリとマップするには「My Documents」を選択します。
- デスクトップ・ディレクトリとマップするには「Desktop」を選択します。
- /media ディレクトリとマップするには「Media」を選択します。このディレクトリは CD-ROM ドライブやフロッピー・ディスク、Zip ドライブ等、取り外し可能なメディアにファイル・システムをマウントするために用いられます。

リバース・スクロール・ホイール

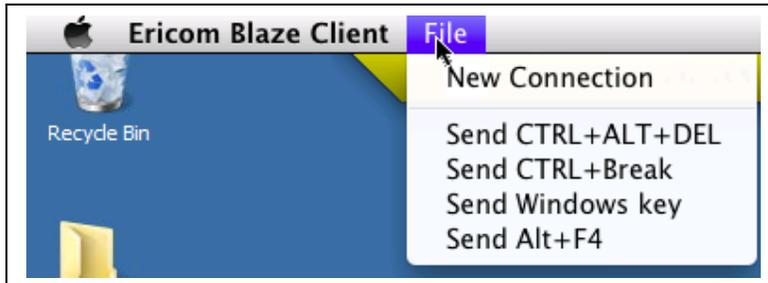
一部の Mac では、スクロール・ホイールが逆方向にて実行されます。スクロール・ホイールの現在の方向を変更するには、Local Resources タブにて「Reverse Scroll Wheel」設定を選択します。



Blaze クライアントのファイル・メニュー

Mac 用の Ericom Blaze クライアントでは、新たな接続を開く、複数の Windows 関連のキーの組み合わせを保存する、といった更なる機能を実行するための *File* メニューが提供されます。

フル画面モードでファイル・メニューにアクセスするには、マウスをスクリーンの左上の角に配置します。Mac のツールバーが *File* メニューの選択と共に表示されます。



Blaze のタイトルバーを未表示とする

Mac 用の Blaze クライアントにてタイトルバーが無効となっている場合には、アクティブなセッションの間、タイトルバーを有効とすることはできません。



もし Blaze のタイトルバーが有効となっている際に、アクティブな Blaze のセッションの間無効とすると、ユーザはアクティブなセッションの間タイトルバーに再度アクセスすることができなくなります。再度タイトルバーを表示するには、ユーザはセッションを解除し、再接続することが必要となります。



7. Linux 用の Ericom Blaze クライアント

インストールに求められるもの

- 最新版の Linux ディストリビューション（Red Hat, Fedora, Suse や Ubuntu 等）。Linux kernel 2.6 またはそれ以上が必要です。
- 20 MB の利用可能なハードディスク容量
- MMX に対応する CPU
- Blaze を用いる前にインストールする必要のある X11 ライブラリー: Xcursor、Xrandr、Xinerama など

Linux 用の Ericom Blaze クライアントをインストールする

Linux 用 Ericom Blaze クライアントのインストーラには以下の 4 つの種類があります。

- Red Hat / Fedora / Suse などのほとんどの Linux ディストリビューションの rpm
- Debian ベースの Linux ディストリビューション Ubuntu や HP® ThinConnect などの deb
- ほとんどの Linux 環境に対応し、その他のユーザのルートにて利用可能なグラフィカル・インストーラ
- すべてのファイルを含む Blaze.tar.gz のアーカイブ。Linux シンククライアントのインストールに最適

rpm を用いてインストーラするには、このコマンドを入力してください。

```
rpm -I Ericom-Blaze-Client.rpm
```

deb を用いてインストールするには、Ericom-Blaze-Client.deb ファイルをダブルクリックしてください。

deb バージョンもこのコマンドを実行することによりインストールできます。

```
dpkg -i Ericom-Blaze-Client.deb
```

注意 Linux シンククライアントの deb パッケージを用いて Blaze をインストールする場合には、シンククライアント提供ベンダーによりソフトウェアのインストール・ツールが求められる場合があります。
--

グラフィカル・インストーラを用いるには、以下の手順に従ってください。

1. Ericom-Blaze-Client-For-Linux.zip を解凍する
2. zip から得た Ericom-Blaze-Client-For-Linux.sh を開始する
3. インストレーション用ウィザードの指示に従う

インストーラがルートにより実行される場合には、初期設定でのインストレーションのロケーションはこちらになります。

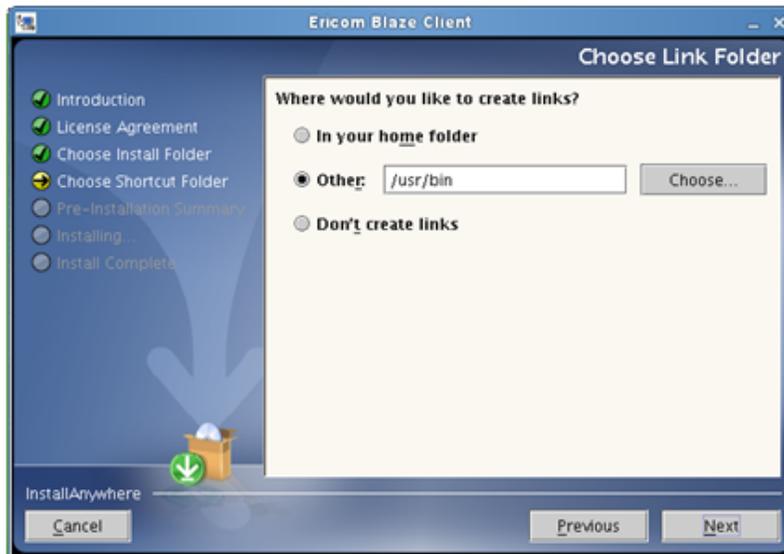
/Ericom-Blaze-Client

そうでない場合には、インストレーションのディレクトリがインストールしているユーザのホームディレクトリに作成されます。例えばこのようになります。

/home/user/Ericom-Blaze-Client

インストレーションのディレクトリは **blaze** という名前の実行可能なファイルを含みます。このファイルを実行し、Ericom Blaze クライアントを開始します。

このグラフィカル・インストーラにて、お望みのディレクトリ内の実行可能なファイルへのリンクを作成するためのオプションを利用することができます。初期設定では /usr/bin となります。



対象となるフォルダへの書き込み権限が求められます。さもなければ、エラーメッセージが表示されます。

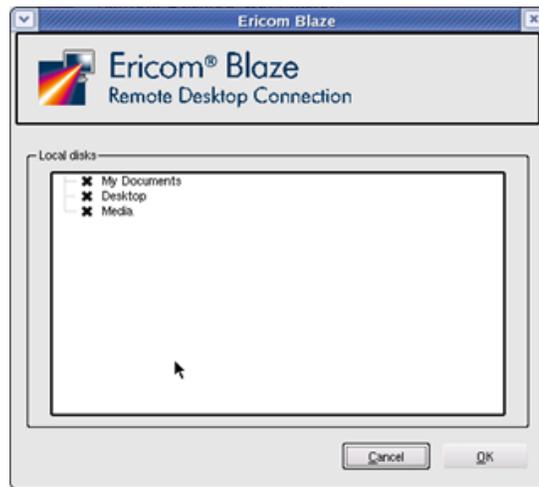
Linux にて Ericom Blaze クライアントを用いる

Ericom Blaze クライアントを開始するには、blaze という名前の実行可能なファイルまたはリンクを用います。Windows プラットフォームと同様の接続用ウィザードが表示されます。詳細につきましては、Windows 用の Blaze クライアントの章をご覧ください。実行可能なファイルは、/opt/Ericom-Blaze-Client ディレクトリにあります。

コア機能を適正に用いるために、Windows プラットフォーム用 Blaze クライアントの章を読み返してください。

ドライブのマッピング

ドライブのマッピング用ダイアログは3つのオプションを提供します。



- ホーム・ディレクトリをマップするには *My Documents* を選択します。
- デスクトップ・ディレクトリをマップするには *Desktop* を選択します。
- *Media* を選択し、/media ディレクトリをマップする。このディレクトリは、CD-ROM ドライブやフロッピーディスク、Zip ドライブ等の取り外し可能なメディアにファイル・システムをマウントする場合に用いる事ができます。

8. CE 用の Ericom Blaze クライアント (β 版)

インストールに必要なもの

- Windows CE 5.0、6.0 またはそれ以上
- 15 MB の利用可能なハードディスク容量
- MMX に対応する CPU

CE 用の Ericom Blaze クライアントを入手する

ベータ版のダウンロードに関する詳細につきましては、Ericom サポート (supportusa@ericom.com) にお問い合わせください。

CE 用の Ericom Blaze クライアントをインストールする

Windows CE デバイスは設定により大幅な違い生じます。CE にて Ericom Blaze クライアントをテストする最も簡単な方法は、USB キーに ZIP フォルダー (Blaze.exe と msvcr90.dll) の中身を USB ドライブ内に解凍保存し、実行させる方法です。CE デバイスが完全にロックされている場合には、シンクライアント提供先ベンダーに連絡を取り、シンクライアント用イメージに CE 用の Ericom Blaze を追加するように要請することが必要となります。

9. ベスト・プラクティス

セキュリティ設定をチューニングすることによるパフォーマンスの向上

免責 システムやサービスにセキュリティ関連の変更をする前に、御社セキュリティ管理者に相談するようにしてください。

Microsoft RDP に対して暗号化が有効となっている場合には、サーバ（ホスト）のリソースがより多く消費されることとなります。リソースの利用を少なくし、Ericom Blaze のパフォーマンスを向上させるには、セッションのホスト（ターミナルサーバ）の *RDP Encryption level* 設定を *Low* にしてください。RDP 暗号化のレベル設定を *Low* にすることにより、サーバからクライアントへのトラフィックにて RDP 暗号化が無効となるように設定されます。しかしながら、クライアントからサーバへのトラフィック（ユーザの身分証明を含む）は引き続き暗号化されます。

Ericom Blaze は強力な 128-bit SSL 暗号化を標準装備しています。この機能により、スタンダードな Microsoft RDP 暗号化を利用することができるようになり、結果として Blaze のパフォーマンスが向上します。この機能は Ericom Blaze サーバ設定用のコンソールを用いて有効にすることができます。そちらにて *Encrypt Blaze communication* を *Always* と設定してください。

RDP 暗号化が必要でないネットワーク（例：サードパーティのセキュリティ用でバイスが用いられている）では、RDP 暗号化を無効にし、Ericom Blaze SSL を *inherit from RDP* と設定することによりより最高のパフォーマンスを得る事ができます。

Ericom Blaze supports strong SSL encryption

Encrypt Blaze communication:

IRDP 暗号化を調整するための指針

Windows 2003, 2008, 2008R2 ターミナルサーバ

Windows 2003 や 2008 の場合には、Administrative Tools | *Terminal Services Configuration* を開きます。

Windows 2008 R2 の場合には、Administrative Tools | *Remote Desktop Session Host Configuration* を開きます。

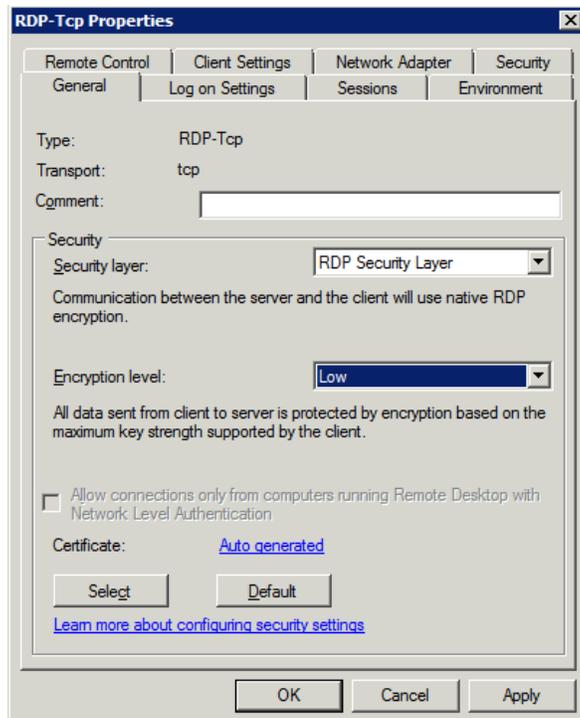
General タブを開きます。

Security layer を *RDP Security Layer* に設定します。（こちらが初期設定サーバです）

Encryption レベルを *Low* に設定します。

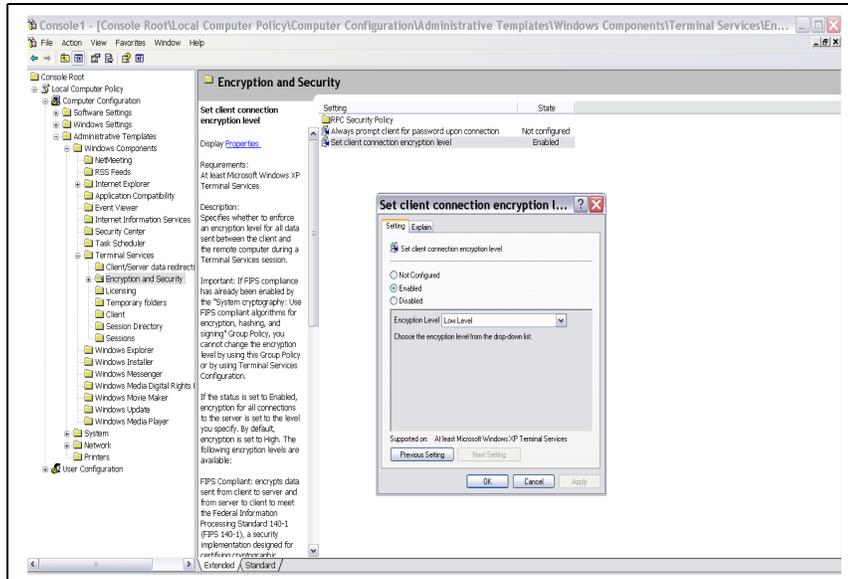
OK をクリックし、設定の変更を許可します。

注意 もしこれらの設定がグレー色となっており、変更できない場合には、それらはおそらくグループポリシーにより管理されています。この場合にはサーバ管理者に変更を依頼してください。



Windows ワークステーション (XP, Vista, 7)

RDP 暗号化はシステムのローカル/グループ用ポリシーにより設定されます。変更するために助けが必要な場合には、御社のシステム管理者に相談するようにしてください。

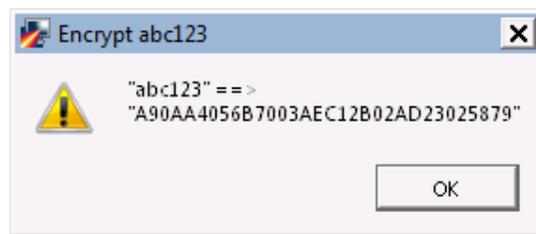


暗号化されたパスワードやパラメータを用いる

Blaze クライアントは XTEA 暗号化パスワードをサポートします。Blaze クライアントにて -J パラメータ（「J」は大文字）を用いて暗号化されたパスワードを作成します。

```
C:\Program Files (x86)\Ericom Software\Ericom Blaze Client>blaze -J abc123
```

すると、暗号化されたパスワードが提供されます。



暗号化されたパスワードを用いるには、`blaze -uUserName -j <encrypted password> <ServerName>` を実行します。（小文字「j」に注意します）

例：

```
Blaze.exe -uGuest -j A90AA4056B7003AEC12B02AD23025879 svr.acme.com
```

注意 暗号化されたパスワードはコマンドラインのパラメータとしてのみ機能します。Blaze クライアントの GUI にパスワードとして入力することはできません。

ロードバランサーを用いる

大規模なアプリケーションやデスクトップをホストしている環境においては、複数の RDP ホスト・サーバが必要とされます。大きな負荷を扱い、大規模なターミナルサーバ

群にてユーザを均等に割り振るために Ericom PowerTerm WebConnect コネクションブローカを用いる事ができるかもしれません。Blaze はターミナルサーバを認識するサードパーティのロードバランサーと連動させることができます。（例：Windows 2008 Session Broker や 2X Load Balancer）

設定

Windows オペレーティング・システム（2003 かそれ以上）上で実行されるソフトウェア・ベースのロードバランサー（例：Remote Desktop コネクションブローカ）を用いている場合には、Ericom Blaze サーバは同じマシンにインストールすることができるかもしれません。それ以外のロードバランサーにおいては、別のマシンに Ericom Blaze をインストールするようにしてください。

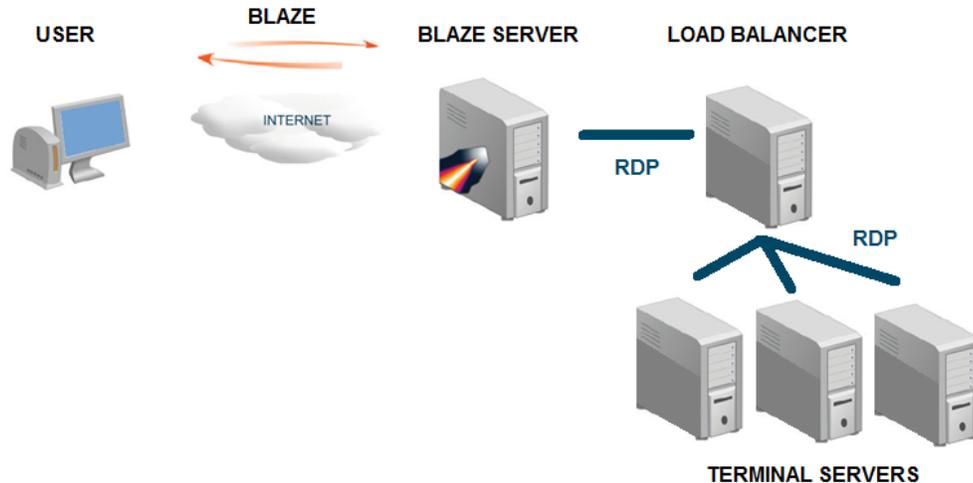
Ericom Blaze サーバはロードバランサー用アドレスやポートに接続するように設定されなければなりません。そうするために、Ericom Blaze サーバの Configuration Tool を用いる事ができます。**Communication** タブを開き、RDP ホスト用アドレスにロードバランサーの **address:port#**を入力してください。Blaze サーバがロードバランサーと同じ Windows マシンにインストールされている場合には、**localhost:port#**を用いてください。



Service	Licensing	Performance	Communication	Acceleration	Security	Logging	Advanced
Blaze port number: 3399 <input type="button" value="Restore Default (3399)"/>							
Changing this setting will take effect only after the Blaze Server service is restarted.							
Specifies the TCP/IP port on which the Blaze Server service listens for incoming connections. Do not use a port number which is already in use by some other service or application on the computer. If you do, Blaze Server service will not start.							
Important: Blaze Clients automatically connect to port 3399 when using accelerated RDP. If a different port value is selected, that value must be explicitly specified in the Clients' host address field.							
RDP host address: lb.ericom.com:80							
Changing this setting will take effect only after the Blaze Server service is restarted.							

Ericom Blaze クライアントが Blaze サーバのアドレスと接続するように設定してください。Blaze サーバはロードバランサーにコミュニケーションを転送します。この環境では、Blaze サーバ、ロードバランサー、RDP ホスト間の接続は密接かつ遅れのないようにしなければなりません。そうすることにより、優れたパフォーマンスを提供することができますようになります。

この図では、Ericom Blaze がロードバランサーとどのように連動するかについて示されています。



Ericom Blaze サーバを実行しているシステムは、アクティブなユーザすべてがスムーズに利用できるようにするために、十分なメモリを備えている必要があります。

設定のサンプル

それぞれの Blaze サーバのセッションにはだいたい 7MB 程度用いられます。Blaze サーバに 2560 MB のメモリがある場合には、このサーバで扱うことのできるユーザの数はこのように割り出す事ができます。

$$512\text{MB} + 2048\text{MB} / 7\text{MB} = 292 \text{ ユーザ}$$

512MB はオペレーティング・システムに割り振られます。残りのメモリはユーザのセッションのために用いられます。Blaze サーバは 32 bit のアプリケーションであるため、2 GB 程度用いられるのみとなります。300 ユーザ以上サポートする必要がある場合には、Ericom サポートにご相談ください。

外国語のキーボード・レイアウトならびに外国語での利用

インストレーションに必要とされるもの

クライアントで用いられる言語は、Blaze がインストールされているホストによって定義されます。

Mac と Linux の設定

LANG 環境変数はクライアント用デバイスの言語を定義するために用いられます。LANG 環境変数がクライアントにて正しく設定されているか確認してください。環境変数のバリューが Blaze クライアントのフォルダ内の lang.txt ファイルにある入力と一致しているか確認してください。

国際スペイン語は現在サポートされていません。一般スペイン語を用いるようにしてください。

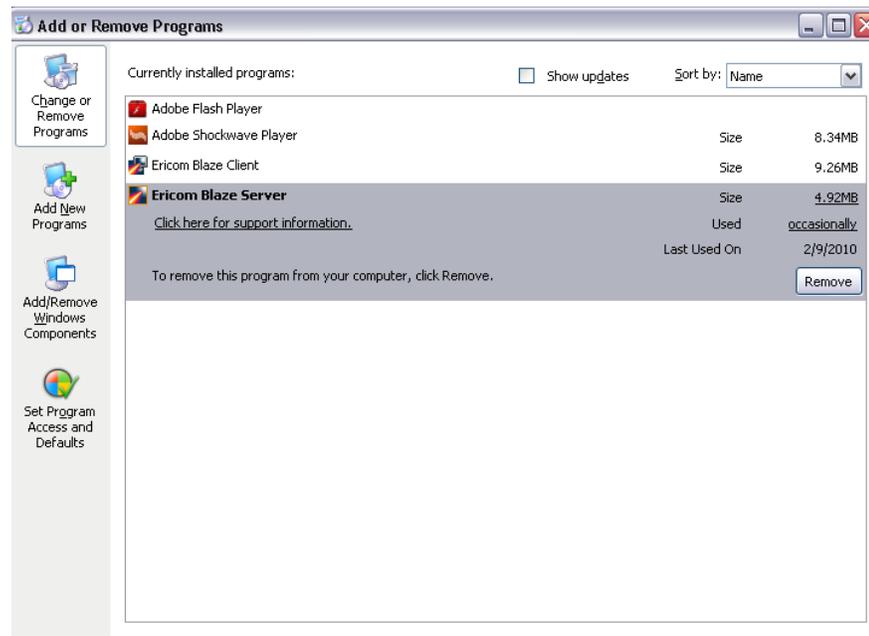
新しいバージョンの Blaze クライアントでは希望するキーボードのロケールを選択するためのドロップダウン・ボックスが含まれます。



10. Ericom Blaze をアンインストールする

Windows

Control Panel | Add/Remove Programs にて Ericom Blaze クライアントとサーバをアンインストールします。

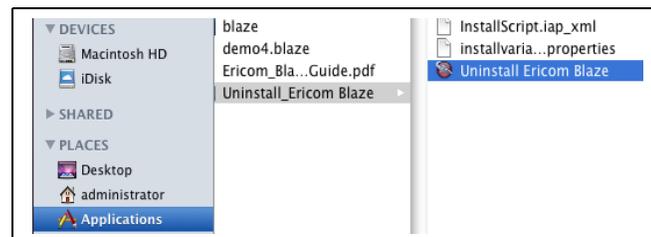


Linux

Blaze アプリケーション・ディレクトリからアンインストールするスクリプトを実行します。

Mac

Blaze アプリケーション・ディレクトリからアンインストーラを実行します。



11. Juniper® SSL VPN とのインテグレーション

設定に必要とされるもの

Juniper SA-2000 6.0R1

Ericom Blaze Client 1.2 またはそれ以上

Ericom Blaze サーバ 1.2 またはそれ以上

Windows Secure Application Manager Configuration (WSAM)

Juniper SSL VPN アプライアンスを用いて Ericom Blaze を用いる方法のひとつに、ネットワーク・アクセスに Windows SAM (WSAM) を設定する方法があります。WSAM は HTTPS 接続経由で Ericom Blaze のトラフィックをトンネリングすることによりアクセスを許可します。

Juniper IVE からの場合には、こちらを参照します。 Users → User Roles → <Role Name> → SAM → Applications

Add Server をクリックします。

Name フィールドに Blaze サーバのディスプレイ名を入力します。次に、サーバを見極めるための説明を入力します。

Server フィールドに Blaze サーバ名を入力します。以下の例では、*server.widgets.com* が用いられます。

Ports フィールドに Ericom Blaze ポートを入力します。

Save Changes をクリックします。

Roles > Users Main >
New Allowed Server

* Type:

Name:

Description:

* Server: Name or IP address
You can use * or ? wildcards.
You can also specify with a
netmask or prefix-length
(10.10.10.20/255.255.255.0
or 10.10.10.20/8).

Port(s): You can specify multiple
ports as comma-delimited
lists (1,2,3,4) or ranges
(1-4).

IVE ブラウザよりこちらを参照します。Users → Resource Policies → SAM → Access Control

<Role Name>のための WSAM アプリケーションのポリシーを確認します。もしポリシーが存在しない場合には、次のステップに進みます。そうでない場合には、設定は完了しています。

「New Policy」をクリックします。

Name フィールドに Ericom Blaze サーバのポリシーのディスプレイ名を入力します。

Description フィールドにポリシーを見つけるのに役立つ説明を入力します。

Resources フィールドに以下のフォーマットでアドレスを入力します。

<server_name>:<port>.

Roles セクションにて、Ericom Blaze サーバにアクセスするための適切な役割をクリックします。

Secure Application Manager Policies >
New Policy

* Name: Required: Label to reference this policy.

Description:

Resources

Specify the resources for which this policy applies, one per line.

* Resources: Examples:
 <USER>.domain.com:22,23
 exchange*.domain.com:*
 10.10.10.10/255.255.255.0/60,443,8080
 10.10.10.10/24:8000-9000

Roles

Policy applies to ALL roles
 Policy applies to SELECTED roles
 Policy applies to all roles OTHER THAN those selected below

Available roles:

Add ->
 Remove

Action

Allow socket access
 Deny socket access
 Use Detailed Rules (available after you click 'Save Changes')

Save changes?

Action セクションにて、「Allow socket access」を選択します。

「Save Changes」をクリックします。

Java Secure Application Manager Configuration (JSAM)

Juniper SSL VPN アプライアンス経由で Ericom Blaze を用いるその他の方法には、Java SAM (JSAM) やネットワーク・アクセスを設定する方法があります。JSAM にはクロスプラットフォームであることの利点があり、ワークステーションにて管理者用特権がなくても実行する事ができます。JSAM は、HTTPS 経由で Ericom Blaze トラフィックをトンネリングすることにより、アクセスを許可します。

まずはじめに、Windows SAM の代わりに Java SAM を用いるためのユーザの役割を正しく設定します。

Juniper IVE より以下を参照します。Users → User Roles → <Role Name> → General → Overview

Access features セクションをスクロールダウンします。

Secure Access Manager を選択し、Java version ラジオボタンを選択します。



Save Changes ボタンをクリックします。

Juniper IVE より以下を参照します。Users → User Roles → <Role Name> → SAM → Options

ラジオボタン「Java SAM」が選択されていることを確かめます。

「Java SAM Options」セクションにて、「Automatic Host Mapping」を選択してユーザが社内の DNS 名を用いることを許可します。このオプションが正常に機能するには、ユーザはローカルのワークステーションに対してローカルの管理者用アクセスを持っている必要があります。

「Save Changes」をクリックする

Juniper IVE より以下を参照します。Users → Resource Profiles → SAM → Client Applications

「New Profile」を選択する

Type を「JSAM」と設定する

Application を「Custom」と設定する

名前を設定する。例：「Ericom Blaze」

Ericom Blaze サーバを JSAM Port Forwarding セクションに追加します。Ericom Blaze サーバのポートは 3399 となります。それぞれのエントリーにて、「Add」ボタンをクリックしてください。

チェックボックスの「Create and access control policy allowing Sam access to these servers」が選択されている事を確認してください。

「Save and Continue」を選択します。役割のセクションが表示されます。

Client Application Resource Profiles >
New Client Application Resource Profile

Type: *

Application: *

Name: *

Description:

JSAM Port Forwarding

JSAM secures traffic destined for the following server(s). It listens for this traffic on a local loopback address, which you can also specify (valid loopback addresses are 127.0.0.1 or 127.0.10.x and higher). JSAM will automatically choose and configure the client loopback addresses if you leave them blank. If you leave the Client Port blank, JSAM will use the Server Port for that server.

Servers:

<input type="checkbox"/>	Server Name *	Server Port *	Client Loopback IP	Client Port	
<input checked="" type="checkbox"/>	server.widgets.com	3399			<input type="button" value="Add"/>
<input type="checkbox"/>					

Create an access control policy allowing SAM access to these servers
 Allow JSAM to dynamically select an available port if the specified client port is in use

Save changes?

* indicates required field

「Available Roles」から適切な役割を選択し、「Add->」ボタンを選択します。
「Save Changes」ボタンをクリックします。

12. iGel® Linux シンククライアントのインストール

この章では iGel カスタム・パティッションを用いて iGel Linux シンククライアントに Ericom® Blaze クライアントをインストールする方法について説明します。この内容をよく理解するには、iGel Universal Management Suite (UMS) とデバイスを管理する上での十分な知識があることが求められます。iGel カスタム・パティッションに関する更なる情報は iGel UMS 管理者用ガイドにて提供されています。

必要とされるもの

iGel 管理ツールをインストールする Windows 2003 / 2008 サーバ。iGel Universal Management Suite 3.5.550 (Build 7867) は Ericom により承認されています。

iGel Linux シンククライアント用デバイス、ファームウェア・バージョン: 4.03.500.01 を実行している iGel UD3-720LX がテストに用いられました。

ステップ 1: Blaze ファイルと iGel inf ファイル

Ericom のテクニカル・サポートに連絡し、iGel Linux Blaze パッケージを依頼してください。このパッケージは以下により構成されます。

Blaze.rar.bz2 : このアーカイブ用ファイルには、デバイスに転送される blaze のコンポーネントが含まれています。拡張子は “.rar.bz2” としなければなりません。

Blaze.inf : このファイルは iGel 設定ファイルとなります。このファイルのフォーマットは以下ようになります。

```
[INFO]
[PART]
file="ericom.tar.bz2"
version="1"
```

file= はファイル名を示します。*Version=* は Blaze バージョンとともにアップデートされなければなりません。これらのファイルとその利用法に関する更なる情報につきましては、iGel 提供資料 (Custom Partition) を確認してください。

ステップ 2: 仮想ディレクトリを作成する

- 1) iGel Universal Management Suite (UMS) にフォルダを作成する。
- 2) Ericom により提供された iGel 用ファイルをこのフォルダにコピーします。
- 3) UMS Administrator (コンソールではありません) を開始します。
- 4) 「*snapshots – File Source*」 タブをクリックします。

- 5) **add** をクリックし、名前を付け（この例では **igel** とします）、ステップ 2 で作成したフォルダにこのフォルダを設定します。OK をクリックして作業を続けます。



Dialog box titled "Create new Web Resource" with the following fields and buttons:

- Context-Name: igel
- Document base path: C:\igel
- Buttons: Ok, Cancel

ステップ 3: 仮想ディレクトリをテストする

- 1) ファイルにアクセス可能か確かめます。
- 2) ウェブ・ブラウザを開き、以下を開きます。 <http://yourservername:9080/igel>
- 3) igelums にログインするために用いたものと同じ身分証明を入力します。もし必要なら、UMS に他のユーザ用アカウントを追加します。そうするためには、System メニューより Administrator Accounts を選択します。
- 4) うまくいった場合には、ディレクトリの一覧にて以下の 2 つのファイルが含まれます。

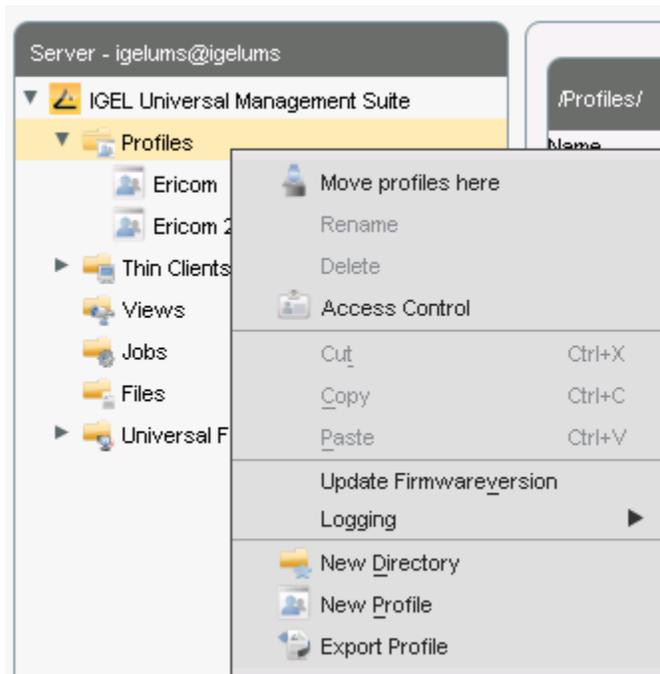
Directory Listing For /

Filename	Size
ericom.inf	0.1 kb
ericom.tar.bz2	4523.9 kb

Apache Tomcat/5.5.9

ステップ 4: Create the iGel Profile in UMS

- 1) UMS に戻ります。 **Profiles** を右クリックして、 **New Profile** を選択します。



2) 以下を開きます。 *System | Firmware Customization | Custom Partition | Partition*

パーティションを有効にする

- 1) Enable Partition をクリックし、パーティションのサイズを設定します。（例：20MB）
- 2) Mount point は **/custom** のままにします。



ダウンロード

- 1) *Downloads* をクリックし、新しい Partition Data Source を追加します。
- 2) URL を設定します: <http://yourservernameorip:9080/igel/ericom.inf>
- 3) 有効なユーザ名とパスワードを入力します（例：UMS にログインするために用いたもの）
- 4) Finalizing Action にこちらを入力してください。 **chmod 777 /custom/Ericom/***



カスタム・アプリケーション

- 1) Custom Applications をクリックし、新しいカスタム・アプリケーションを追加します。
- 2) セッション名のフィールドに、接続名を入力します。
- 3) 必要とされる開始方法とその他の属性を割り当てます。
- 4) Settings をクリックし、以下のコマンドを入力します。

bash -c '/custom/Blaze/blaze <server>'



<server>は接続先のサーバのアドレスを表します。

- 5) Save をクリックします。

bash コマンドを用いる事により、初期設定で Blaze 接続を開始することができます。

接続なしで Blaze ダイアログのみを表示するには、以下を実行してください。

bash -c '/custom/Ericom/blaze'

カスタム設定

Blaze クライアントはコマンドラインのスイッチを受け入れます。スイッチは **bash** コマンドにて blaze 用パラメータに追加することができます。

例えば、接続バーを有効にしたまま “Good” のレベルでの圧縮を用いて Ericom Test Blaze サーバに接続するには、以下を実行してください。

```
bash -c '/custom/Ericom/blaze -G -f -x m -Z 50 rdpdemo.ericom.com:22'
```

一般的な Blaze のコマンドライン用パラメータ

Usage: blaze [options] server[:port]

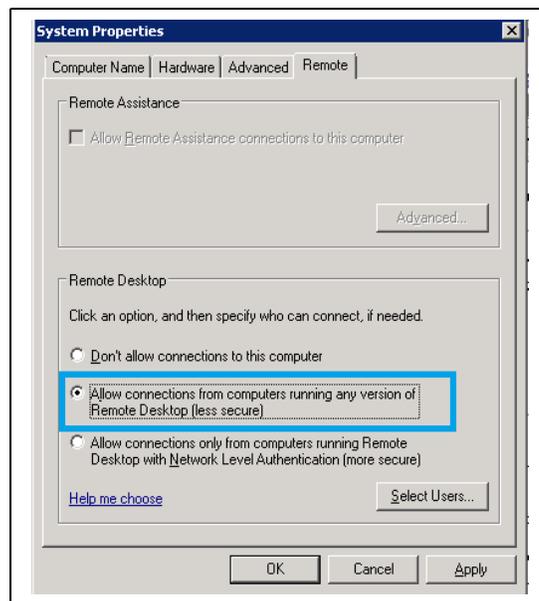
- u: ユーザ名
- d: ドメイン
- s: シェル
- c: 利用しているディレクトリ
- p: パスワード
- g: デスクトップのジオメトリ (WxH)
- f: フル画面モード
- G: 接続バーを表示する
- M#: # は用いられるモニターの場所 (1 = first, 2=second, -1 = primary, -2 = secondary, future: 0 all)
- b: bitmap の強制アップデート
- A: シームレス RDP モードを有効にする
- T: ウィンドウのタイトル
- a: 接続カラーの深み
- Z: blaze のイメージ品質 (10 から 100 まで) 。-z と共に用いないください。

13. トラブルシューティングとよくある質問

この章では一般的な設定上の問題をトラブルシューティングするための指針について説明します。

質問: Blaze は Network Level Authentication (NLA) をサポートしますか。

回答: いいえ、Blaze は現在のところ NLA をサポートしていません。NLA を無効とするようにしてください。そうしない場合には Blaze の接続が失敗します。（「リモートセッションを初期化する」というメッセージが表示され、Blaze クライアントの GUI が再度表示されます。）

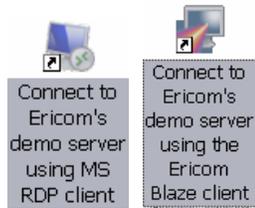


質問: Blaze の印刷が Windows 8 と 2012 で機能しません。

回答: それらのオペレーティング・システムにて印刷をサポートするには、HP Universal Printer ドライバが必要とされます。

質問: Ericom Blaze の動作状況を、適切な RDP ホストを設定することなく確認できる一般用デモ用サーバなどはありますか。

回答: はい、あります。Ericom Blaze クライアントをインストールした後、Start | Programs | Ericom | Blaze Client フォルダーにて、利用可能な 2 つの選択項目があります。こちらにて一般的な RDP と Ericom Blaze RDP のパフォーマンスを比較をすることができます。



デモ用サーバにはパフォーマンスを評価するための様々なアプリケーションや資料などが含まれています。

ヒント rdpdemo.ericom.com へ接続するにあたり、クライアント用デバイスにて、ポート 22 からの接続が求められます。

質問：Blaze のセッションが無活動の状態になっていますが、帯域をかなり消費しています。なぜですか。

回答：すべての画像やアニメーションの重いスクリーンセイバーを無効としてください。スクリーンを空白にするか、テキストを用いたスクリーンセイバーを用いてください。アニメーションを用いたスクリーンセイバーはいかなるプロトコルを用いている場合に置いてかなりの帯域を消費します。

質問：Blaze は上り帯域を用いますか。

回答：はい、Ericom Blaze は通信の一部として上り帯域を用います。ファイル共有プログラム等の一部のアプリケーションは上り帯域をかなり用います。アクティブな Blaze セッション中はそのようなアプリケーションにて上り帯域の利用を制限するか、全く用いないようにしてください。

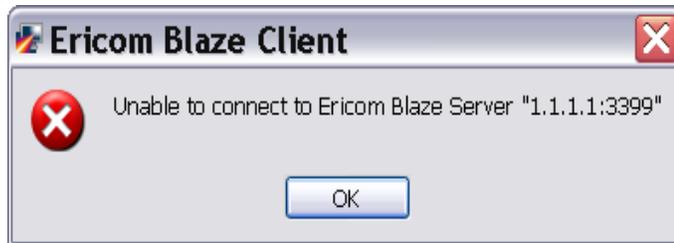
質問：どのように RDP ポートをカスタム値に変える事ができますか。

回答：REGistry Editor (regedit.exe) を用いてこちらの設定を変更してください。

HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Control\TerminalServer\WinStation s\RDP-Tcp\PortNumber

お望みのポート値を入力します。Blaze Server は自動的にこの設定を探知します。

質問： Ericom Blaze クライアントを開始した際に、このようなメッセージが表示されるのはなぜですか。



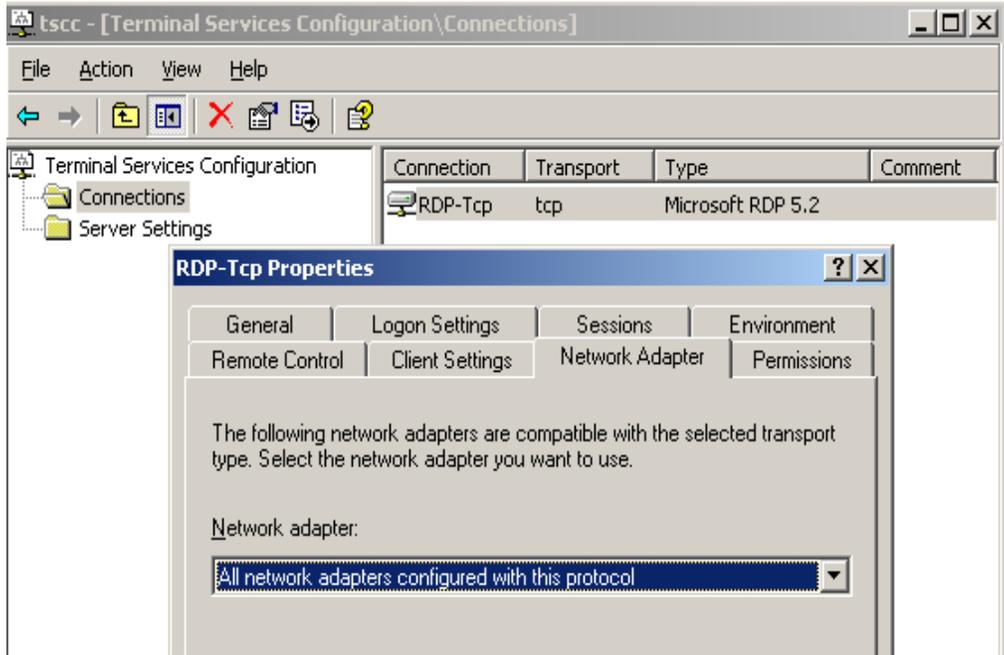
回答: Ericom Blaze サーバが実行されていない、または到達不可能となっています。

- Ping を用いてサーバ（例：testserver）に到達可能かどうか確かめてください。
- ホスト／サーバのファイアーウォールが Ericom Blaze のトラフィック（初期設定では 3399）を許可しているか確かめてください。
- サーバのタスクマネージャにて、BlazeServer32.exe が実行されているかどうか確認してください。（サービスとして実行されているため、タスクマネージャにてすべてのユーザのプロセスを示すように設定する必要があります）
- 受信先ポートが Blaze サーバ設定で適正に設定されているかどうか確かめてください。

質問: Blaze クライアントを RDP 高速化を有効にして開始した際に、点滅したスクリーンが表示され、何も生じません。何が間違っているのでしょうか。

回答: Blaze クライアントは Blaze サーバに接続可能であるものの、Blaze サーバは RDP ホストに接続することができていません（例え RDP ホストで実行されている場合においても）。そのホストへの RDP アクセスが無効となってしまうか、またはネットワーク用アダプターにより制限されている可能性があります。

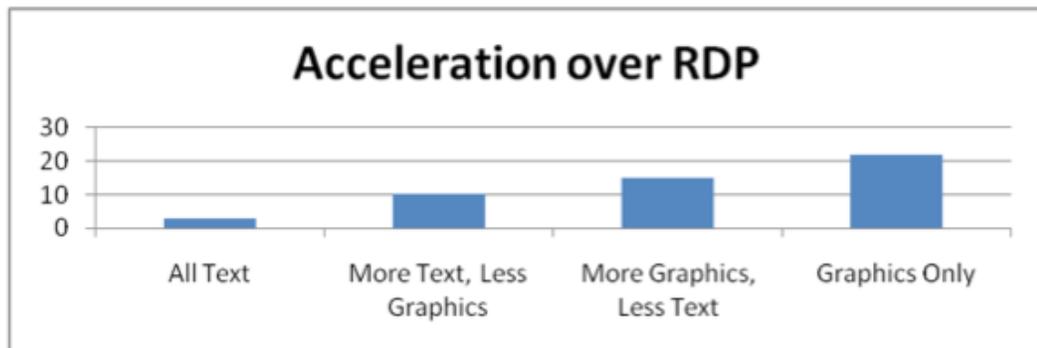
特定のネットワーク用アダプターにてターミナルサーバへの RDP アクセスが制限されていないかどうかを確かめるには、アドミニストレーション用ツールにて Terminal Services Configuration を開きます。表示されたダイアログにて RDP-Tcp をダブルクリックし、Network Adapter タブを選択します。Network adapter ドロップダウンが「All network adapters configured with this protocol」として設定されているかどうかを確かめてください。



質問: Blaze を用いた場合、どれほどの高速化が可能ですか。Blaze はテキストも高速化しますか。

回答: ネットワークの種類とディスプレイの内容により異なります。Blaze は最大 20 倍まで RDP セッションを高速化することができます。エアカード等の制限されたネットワーク（帯域の低い、遅い）にて用いた場合に、より効果を発揮します。もしネットワーク制限のない LAN 上で接続している場合には、それほど効果に気づかないかもしれません。

もし、ご利用のセッションがほとんどテキスト（例：Email の編集）にて構成されている場合、または白黒画面にて構成されている場合には、グラフィックスをふんだんに用いたアプリケーション（例：グーグル・マップ、サテライト用モード）と比べると、効果に気づきにくくなります。



質問: 高画質のクライアント用システムを用いて 2003 サーバに接続する際、カラーの深みが設定値より低くなります。どうすればこの問題を解決できますか。

回答: 最新の Windows 2003 サービスパックのひとつを用いた場合、帯域を保つ目的で、高画質セッションにて RDP のカラーの深みが低くなってしまいます。オリジナルの特性に戻す（設定したカラーの深みを保つ）には、Windows 2003 サーバより以下のリンク先のページ上にある Microsoft ホットフィックスをダウンロードしてください。
<http://support.microsoft.com/kb/942610>

次に、インストールの後にレジストリーのキーをマニュアルでアップデートします。

Registry subkey: HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Terminal Server

Registry entry: AllowHigherColorDepth

Type: REG_DWORD

Value: 1

Name	Type	Data
(Default)	REG_SZ	(value not set)
AllowHigherColor...	REG_DWORD	0x00000001 (1)
DeleteTempDirsO...	REG_DWORD	0x00000001 (1)

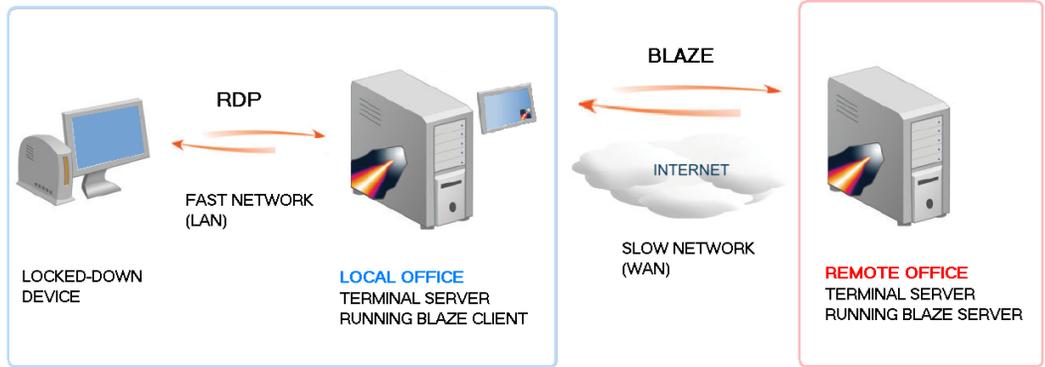
最後に、サーバを再起動します。次のセッションではクライアントにより特定されたカラーの深みとなっていることを確認することができます。

質問: Ericom Blaze は WYSE S10/V10 thin OS デバイスをサポートしていますか。

回答: WYSE thin OS デバイスに Blaze アクセスを提供する最善の方法は以下の通りです。

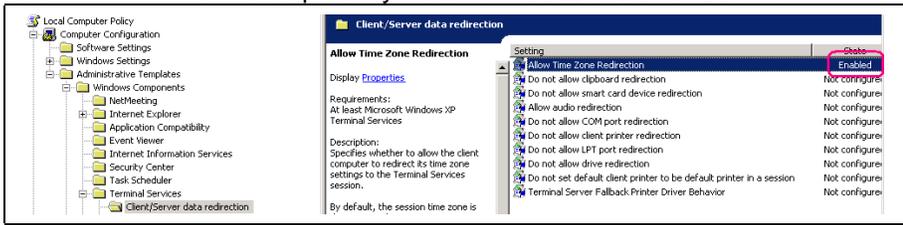
WYSE ターミナルが実行されているロケーションにて新しい（ローカル）ターミナルサーバをセットアップします。ローカル TS に Blaze をインストールします。

RDP を用いてローカル TS と WYSE ターミナル（高速 LAN 接続）を接続します。その後、リモートのシステム（遅いネットワーク接続にて）と接続するために Blaze クライアントを実行します。



質問: なぜ Blaze セッションでの時間設定はクライアント用システムの時間設定と異なるのですか。

回答: ホストにてタイムゾーンの同期 (synchronization) を有効にしてください。こちらは以下のとおり、Group Policy Editor にて調整する事も可能です



質問: Blaze サーバを実行して多くのマシンを設定するにあたり、最善の方法はありますか。

回答: グループポリシーを用いて Blaze サーバのレジストリーを設定します。レジストリー・キーは Advanced ページ内の Blaze Server Configuration application よりアクセスできます。

質問: Windows Azure と用いるためにどのように Ericom Blaze を設定することができますか。

回答: Azure を Blaze と用いるために以下の手順に従ってください。

- Windows 2012 サーバを作成します。
- 管理者用ポータルにて、そのマシンをクリックし、EndPoints をクリックします。
- 3399 経由の TCT 用に新たなエンドポイントを追加する。(Windows ファイヤーウォールの外側のファイヤーウォールのようなもの)
- Blaze クライアントにて、AzureServerName.cloudapp.net:3399 と接続する。

質問：どのようにして技術的なサポートを受ける事ができますか。

回答：SUPPORT@ERICOM.COM にメールし、以下の情報を提供してください。

- Ericom Blaze のどのバージョンを用いているか。
- ホストにどのような種類のシステム／オペレーティング・システムが接続されているか。（例：Windows server, XP の場合）32 bit か 64 bit か。RDP は有効か。
- クライアントはどのような種類のシステム／オペレーティング・システムが接続しているか。（例：Windows server, XP の場合）32 bit か 64 bit か。
- ホストにてポート 3399 が有効となっているか。（ファイヤーウォールの設定に例外はあるか）
- どのようなエラーメッセージが表示されているか
- どのような種類のアプリケーションが Blaze と共に用いられているか。
- 何名／何台のマシン／何台のホストに障害が生じているか（例：1、すべて等）

Ericom について

Ericom® Software はアプリケーション・アクセス、仮想ソリューション、RDP 高速化ソリューションの分野における代表的なプロバイダーです。1993 年以来、Ericom は Microsoft Windows ターミナルサーバ、仮想デスクトップ、レガシー・ホストやその他のシステム上にて実行されているエンタープライズのミッション・クリティカルなアプリケーションにユーザがアクセスすることができるように支援してきました。Ericom は米国、英国、EMEA 地区にオフィスがあります。加えて、北米、ヨーロッパ、アジア、極東において幅広いディストリビューターやパートナーのネットワークがあります。これまで 3 万社以上のお客様、7 億ものユーザを支援してきました。Ericom やその製品に関するより詳しい情報につきましては当社ウェブサイト <http://www.ericom.com> をご覧ください。

製品やサービスに関するより詳しい情報につきましては、こちらのウェブサイトをご覧ください。 <http://www.ericom.com>

North America

Ericom Software Inc.
231 Herbert Avenue, Bldg. 4
Closter, NJ 07624 USA
Tel +1 (201) 767 2210
Fax +1 (201) 767 2205
Toll-free 1 (888) 769 7876
Email info@ericom.com

UK and Western Europe

Ericom Software (UK) Ltd.
11a Victoria Square
Droitwich, Worcestershire
WR9 8DE United Kingdom
Tel +44 (0) 845 644 3597
Fax +44 (0) 845 644 3598
Email info@ericom.co.uk

International

Ericom Software Ltd.
8 Hamarpeh Street
Har Hotzvim Technology Park
Jerusalem 91450 Israel
Tel +972 (2) 591 1700
Fax +972 (2) 571 4737
Email info@ericom.com